

男女共同参画に関する市民意識・実態調査と  
女性活躍及びワーク・ライフ・バランスに  
関する企業調査

令和8年3月

岡山市市民協働局市民協働部  
女性が輝くまちづくり推進課

# 目次

## 第1章 男女共同参画に関する 市民意識・実態調査

I	調査概要	1
II	回答者の属性	3
III	男女共同参画の意識について	5
IV	仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について	66
V	健康について	129
VI	配偶者等からの暴力について	139
VII	男女共同参画の推進について	154
VIII	その他自由意見	171
IX	市民意識・実態調査結果からみた市民意識と課題	175

## 第2章 女性活躍及びワーク・ライフ・バランスに関する企業調査

I	調査概要	180
II	回答企業の属性	182
III	女性の雇用について	188
IV	女性活躍推進について	194
V	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について	220
VI	育児休業の取得について	238
VII	女性特有の健康課題について	246
VIII	男女の賃金格差について	251
IX	企業調査結果からみた企業の取組状況と課題	259

## 第3章 今後の取組について

I	男女共同参画に関する市民意識・実態調査と女性活躍及びワーク・ライフ・バランスに関する企業調査の比較	263
II	今後の取組について	268

## 資料

I	男女共同参画に関する市民意識・実態調査票	270
II	女性活躍及びワーク・ライフ・バランスに関する企業調査票	288

# 第1章 男女共同参画に関する 市民意識・実態調査

## I 調査概要

### 1. 調査の目的

市民の男女共同参画社会や女性が輝くまちづくり、DV（ドメスティック・バイオレンス）に対する考えや意見、実情等を把握し、今後の施策を検討するための基礎資料とすることを目的として実施した。

### 2. 調査の項目

- ・男女共同参画の意識について
- ・仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について
- ・健康について
- ・配偶者等からの暴力について
- ・男女共同参画の推進について

### 3. 実施状況

調査対象	市内在住の18歳以上男女
標本数及び抽出方法	3,000人 単純無作為抽出法（住民基本台帳から抽出）
調査方法	郵送による配付 郵送回収及びWEB回収 無記名方式
調査時期	令和7年8月29日から令和7年9月22日まで（延長～9月26日）

### 4. 回収結果

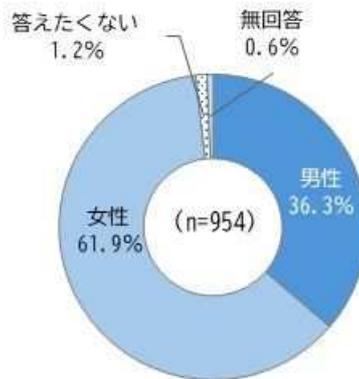
返信数	956人
有効回収数	954人 うち（郵送658人、WEB回答296人） うち（男性346人、女性591人 答えたくない11人 無回答6人）
有効回収率	31.8%

## 5. 報告書の見方

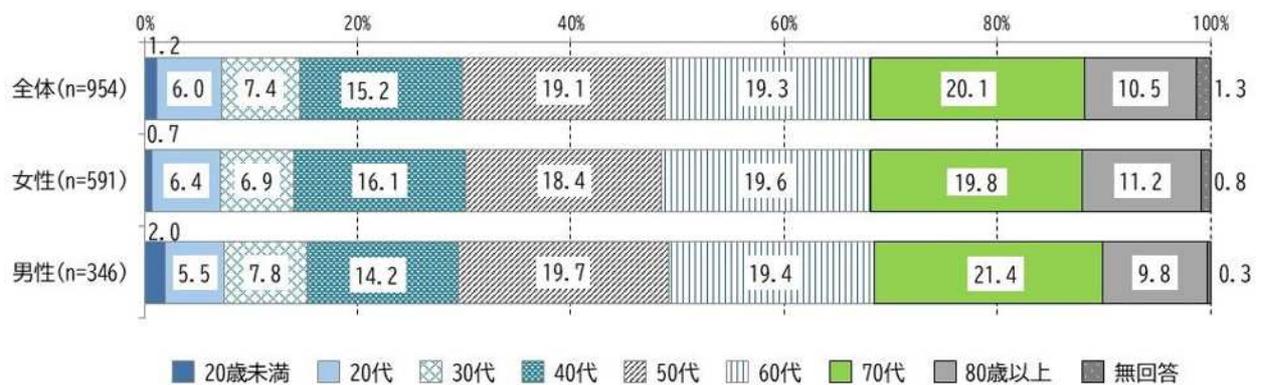
- (1) 本文及び図表中に示した調査結果の数値は百分比(%)で示してある。これらの数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が100.0%とならない場合がある。
- (2) 複数の回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超えることがある。
- (3) 報告書中の図表では、コンピューター入力の都合上、回答選択肢の表現を短縮している場合がある。
- (4) 図表中の「n」は number of cases の略で、回答者総数または分類別の回答者数を示す。各比率はnを100%として算出している。
- (5) 数表、図表、文中に示すnは、比率算出上の基数(標本数)を表している。
- (6) 経年比較の分析においては、無回答を除いている。
- (7) クロス集計は、全体の回答数が100件以上の設問について行う。
- (8) 報告書中の「国調査」は、内閣府が実施した令和6年度男女共同参画社会に関する世論調査を指す。
- (9) 報告書中の「平成17年度調査」は、平成17年9月に実施した「男女共同参画に関する市民意識・実態調査」(平成17年度調査)を、「平成22年度調査」は、平成22年9月に実施した「男女共同参画に関する市民意識・実態調査」(平成22年度調査)を、「平成27年度調査」は、平成27年10月に実施した「男女共同参画に関する市民意識・実態調査」(平成27年度調査)を、「令和2年度調査」は、令和2年8月に実施した「男女共同参画に関する市民意識・実態調査」(令和2年度調査)を指す。
- (10) 報告書中の「平成26年度調査」は、平成26年7月に実施した「岡山市女性が輝くまちづくり調査」(平成26年度調査)を、「平成30年度調査」は、平成30年6月に実施した「岡山市女性活躍及びワーク・ライフ・バランスに関する調査」(平成30年度調査)を、「令和3年度調査」は、令和3年6月に実施した「岡山市女性活躍及びワーク・ライフ・バランスに関する調査」(令和3年度調査)を指す。
- (11) 本調査(令和7年度調査)は、「男女共同参画に関する市民意識・実態調査」に「岡山市女性活躍及びワーク・ライフ・バランスに関する調査」の市民アンケート調査を統合し実施したもの。そのため、「岡山市女性活躍及びワーク・ライフ・バランスに関する調査」の市民アンケート調査項目での経年比較については、年齢区分を60歳未満での集計をしている。

## II 回答者の属性

### 【性別】



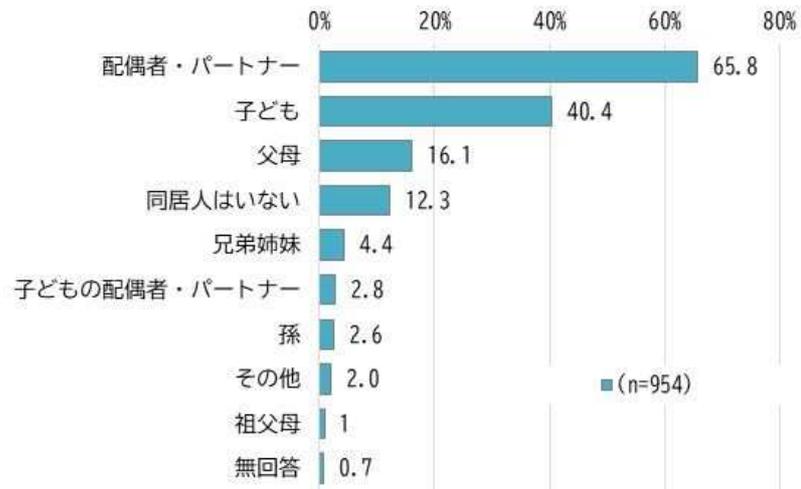
### 【年齢】



### 【子どもがいるか（別居の子どもも含む）】（〇はいくつでも）

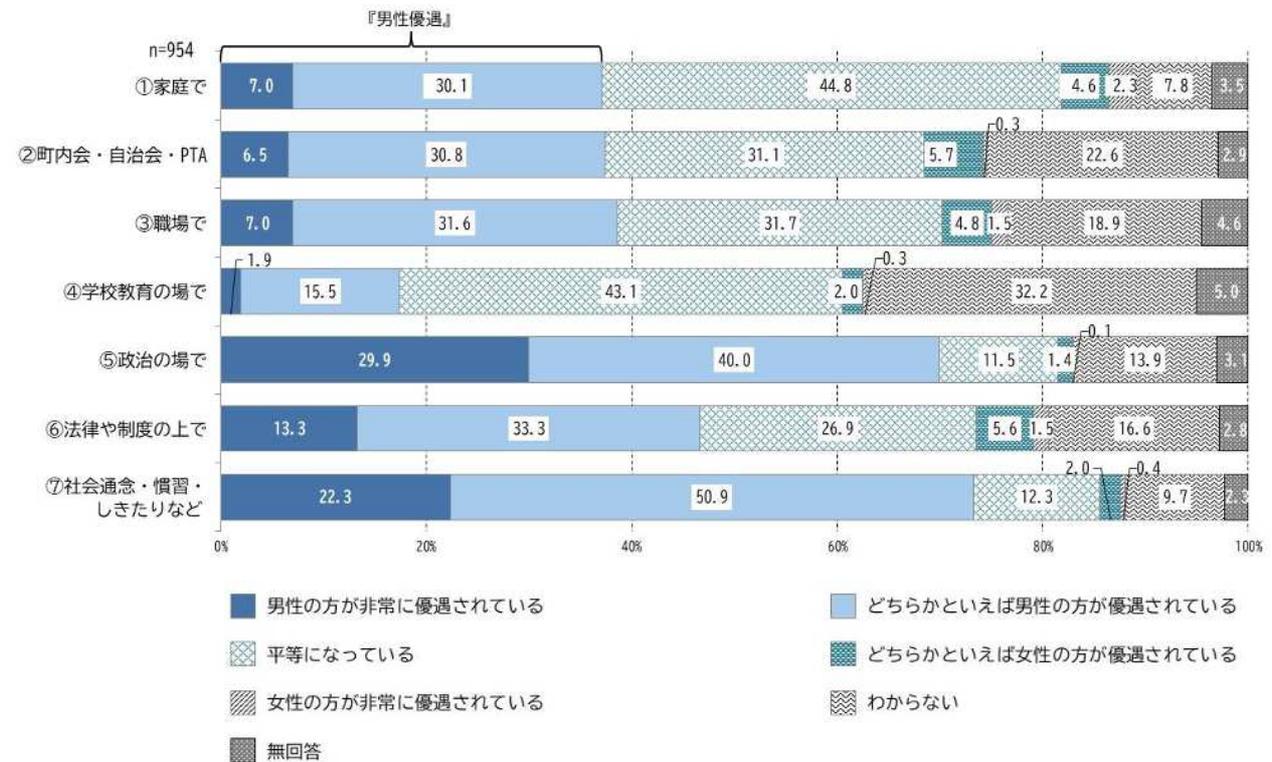


【同居している家族】（〇はいくつでも）



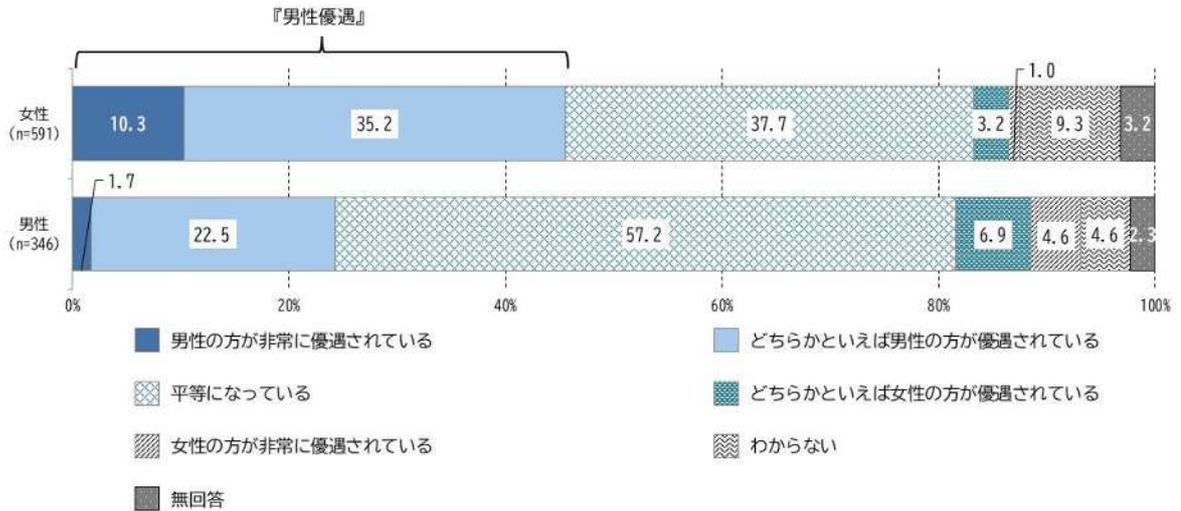
### Ⅲ 男女共同参画の意識について

問5 あなたは、以下①から⑦の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。



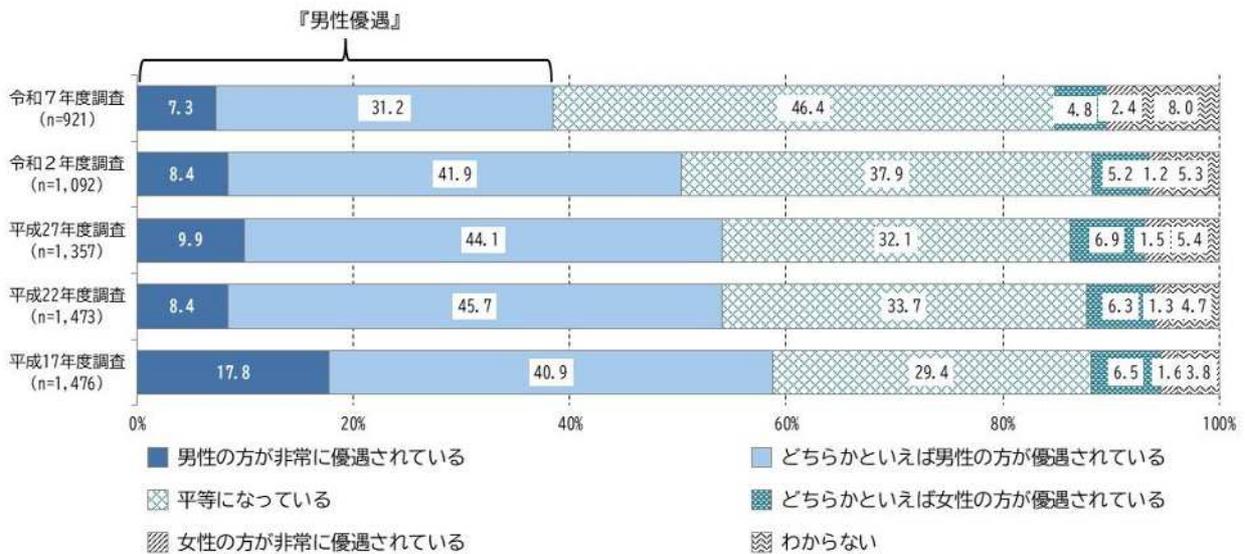
男女の地位の平等感について分野別にみると、『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合）との回答は「⑦社会通念・慣習・しきたりなど」で7割台半ば、「⑤政治の場で」で約7割となっている。また、「平等になっている」との回答は「①家庭で」及び「④学校教育の場で」で4割半ばとなっている。

■①家庭で（性別）



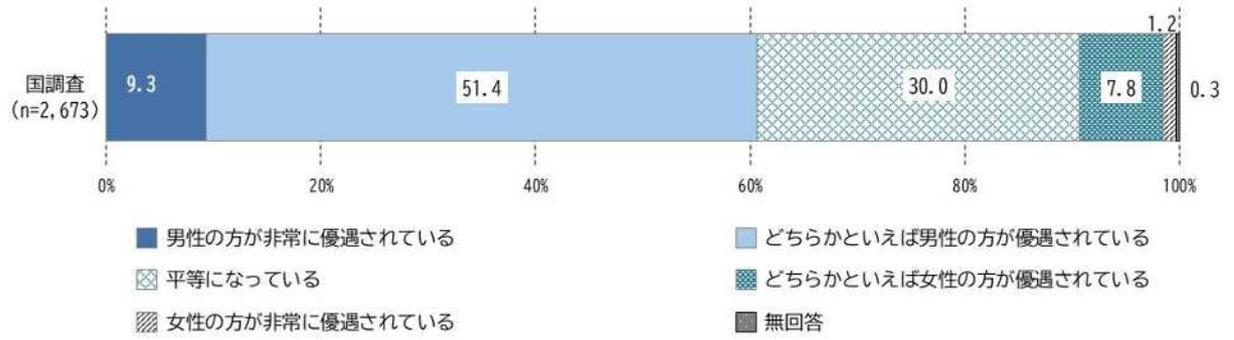
家庭での男女の地位の平等感について、性別にみると、『男性優遇』との回答は女性（45.5%）が男性（24.2%）を21.3ポイント上回っている。また、「平等になっている」との回答は男性（57.2%）が女性（37.7%）を19.5ポイント上回っている。

■①家庭で（経年比較）

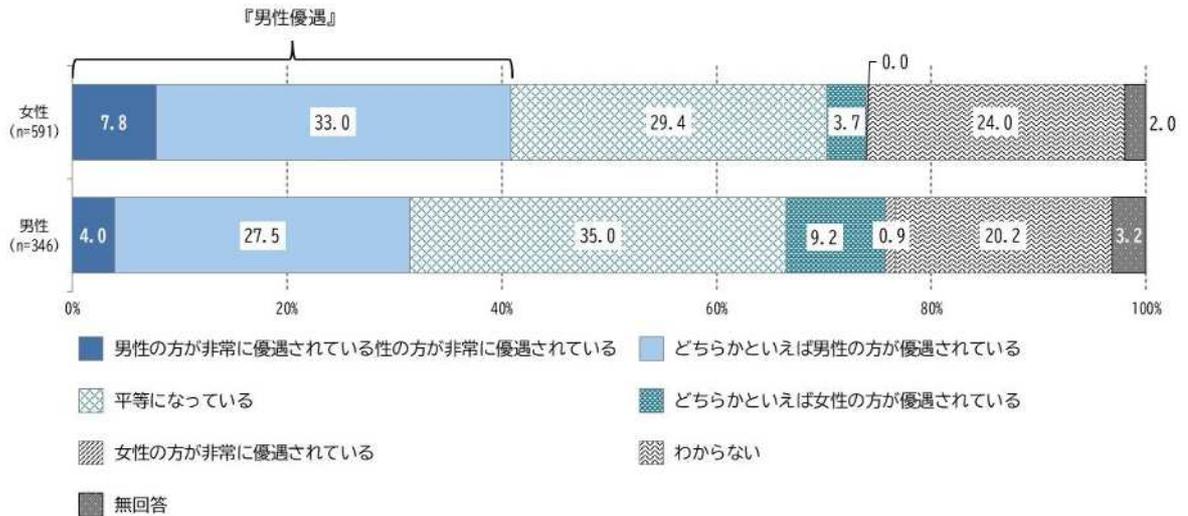


家庭での男女の地位の平等感について、経年比較すると、『男性優遇』との回答は令和7年度調査（38.5%）が令和2年度調査（50.3%）を11.8ポイント下回っている。また、「平等になっている」との回答は令和7年度調査（46.4%）が令和2年度調査（37.9%）を8.5ポイント上回っている。

■【参考】国調査結果（家庭での男女の地位の平等感）

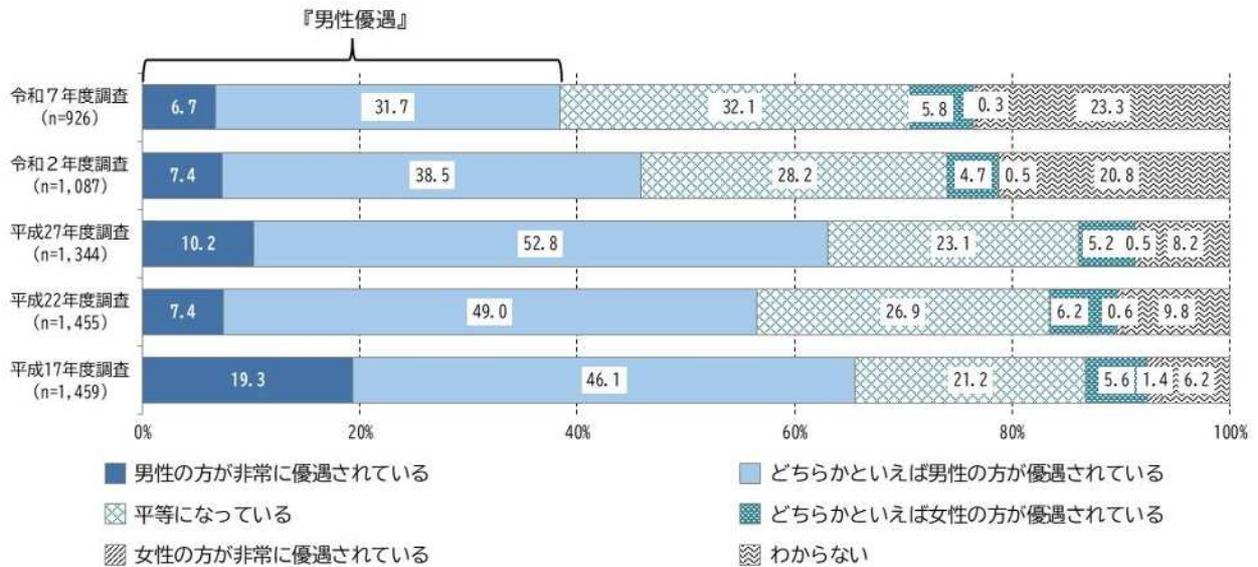


■②町内会・自治会・PTA等地域活動の場で（性別）



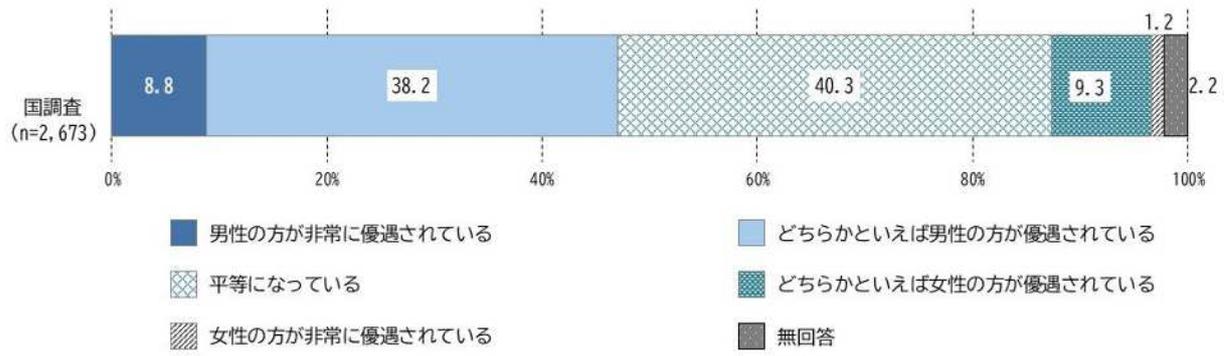
町内会・自治会・PTA等地域活動の場での男女の地位の平等感について、性別にみると、『男性優遇』との回答は女性（40.8%）が男性（31.5%）を9.3ポイント上回っている。また、「平等になっている」との回答は男性（35.0%）が女性（29.4%）を5.6ポイント上回っている。

■②町内会・自治会・PTA等地域活動の場で（経年比較）

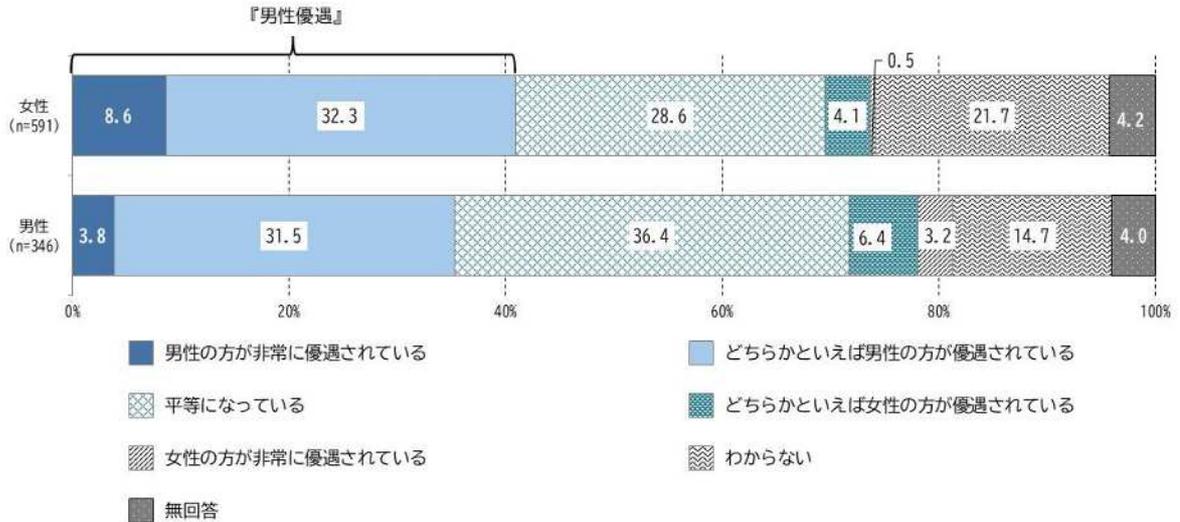


町内会・自治会・PTA等地域活動の場での男女の地位の平等感について、経年比較すると、『男性優遇』との回答は令和7年度調査（38.4%）が令和2年度調査（45.9%）を7.5ポイント、平成17年度調査（65.4%）を27.0ポイント下回っている。また、「平等になっている」との回答は令和7年度調査（32.1%）が令和2年度調査（28.2%）を3.9ポイント、平成17年度調査（21.2%）を10.9ポイント上回っている。

■【参考】国調査結果（町内会・自治会・PTA等地域活動の場での男女の地位の平等感）

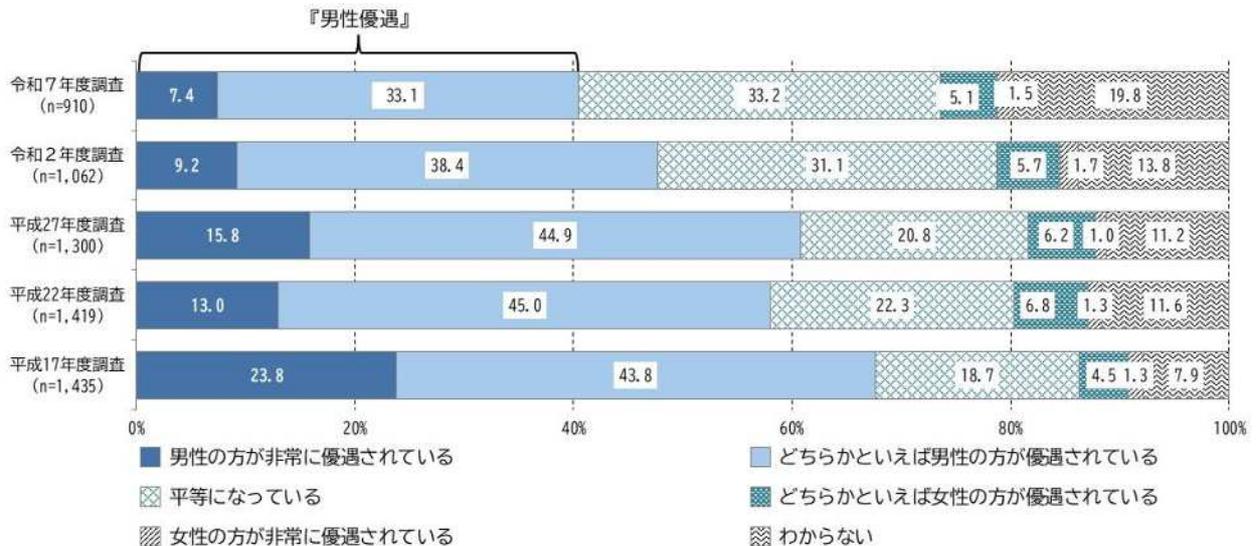


### ■③職場で（性別）



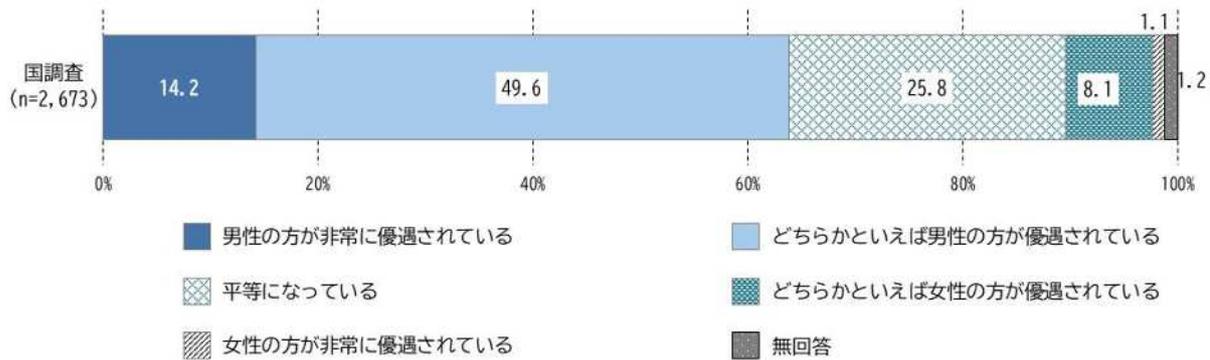
職場での男女の地位の平等感について、性別にみると、『男性優遇』との回答は女性（40.9%）が男性（35.3%）を5.6ポイント上回っている。また、「平等になっている」との回答は男性（36.4%）が女性（28.6%）を7.8ポイント上回っている。

### ■③職場で（経年比較）

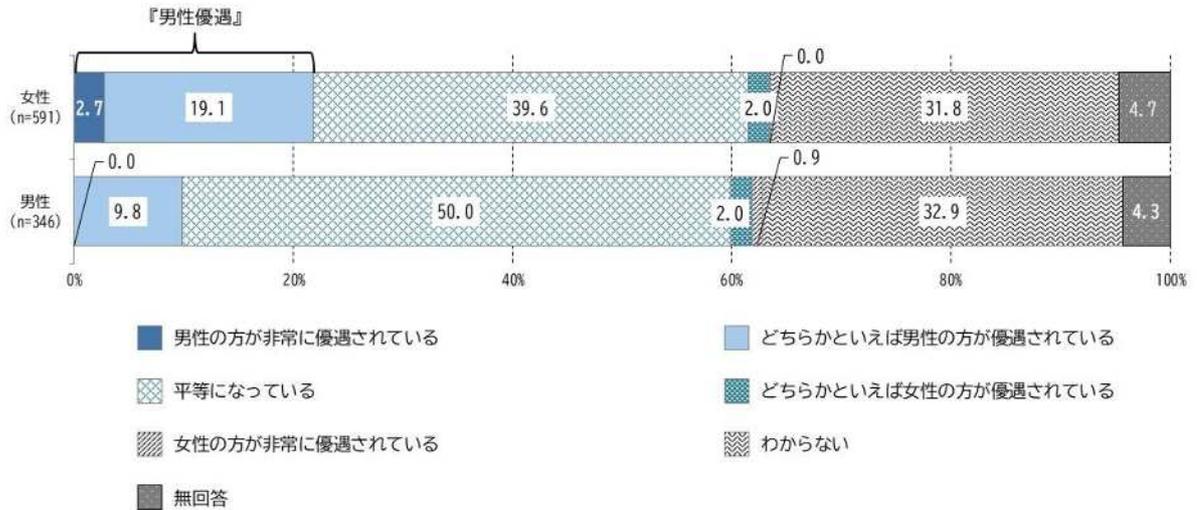


職場での男女の地位の平等感について、経年比較すると、『男性優遇』との回答は令和7年度調査（40.5%）が令和2年度調査（47.6%）を7.1ポイント、平成17年度調査（67.6%）を27.1ポイント下回っている。また、「平等になっている」との回答は令和7年度調査（33.2%）が令和2年度調査（31.1%）を2.1ポイント、平成17年度調査（18.7%）を14.5ポイント上回っている。

■【参考】国調査結果（職場での男女の地位の平等感）

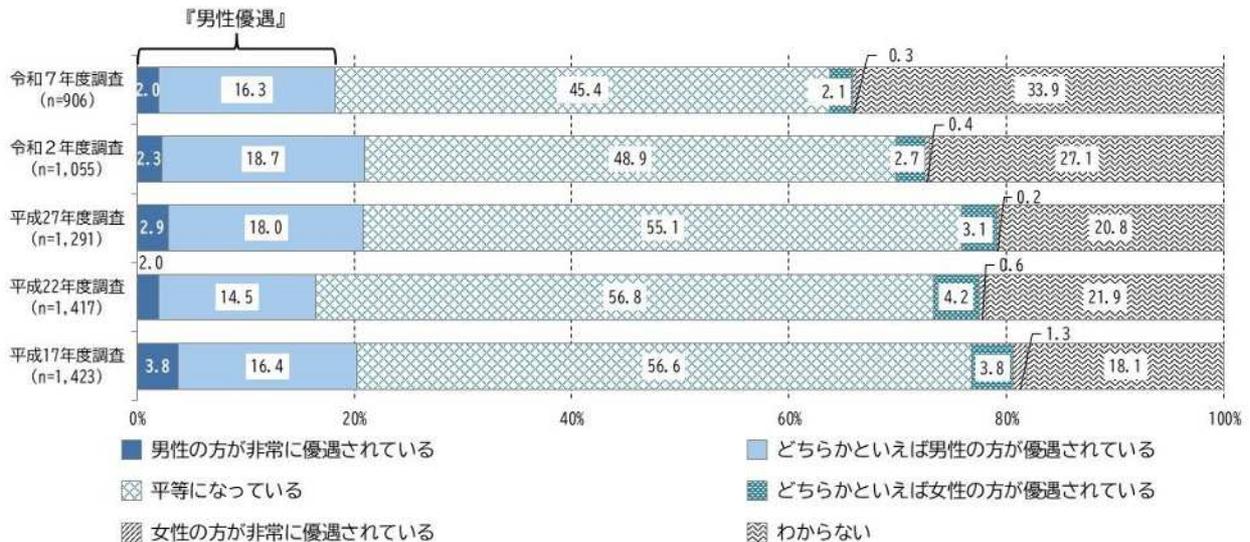


#### ■④学校教育の場で（性別）



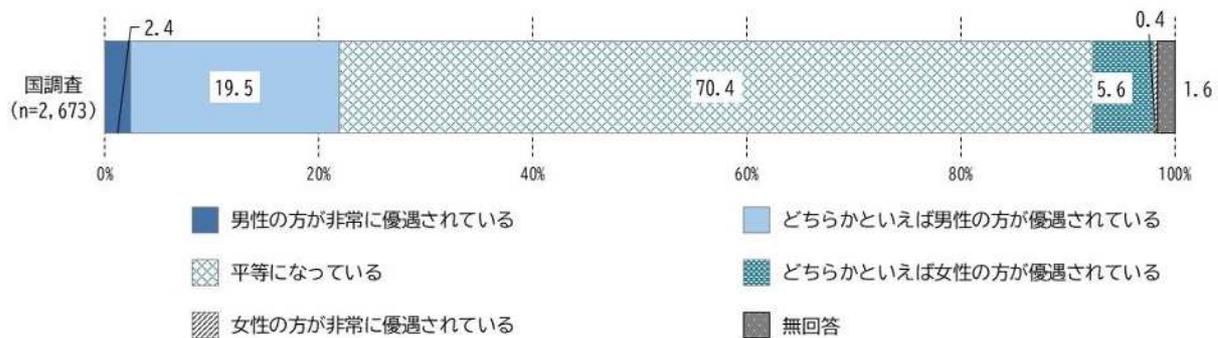
学校教育の場での男女の地位の平等感について、性別にみると、『男性優遇』との回答は女性(21.8%)が男性(9.8%)を12.0ポイント上回っている。また、「平等になっている」との回答は男性(50.0%)が女性(39.6%)を10.4ポイント上回っている。

#### ■④学校教育の場で（経年比較）

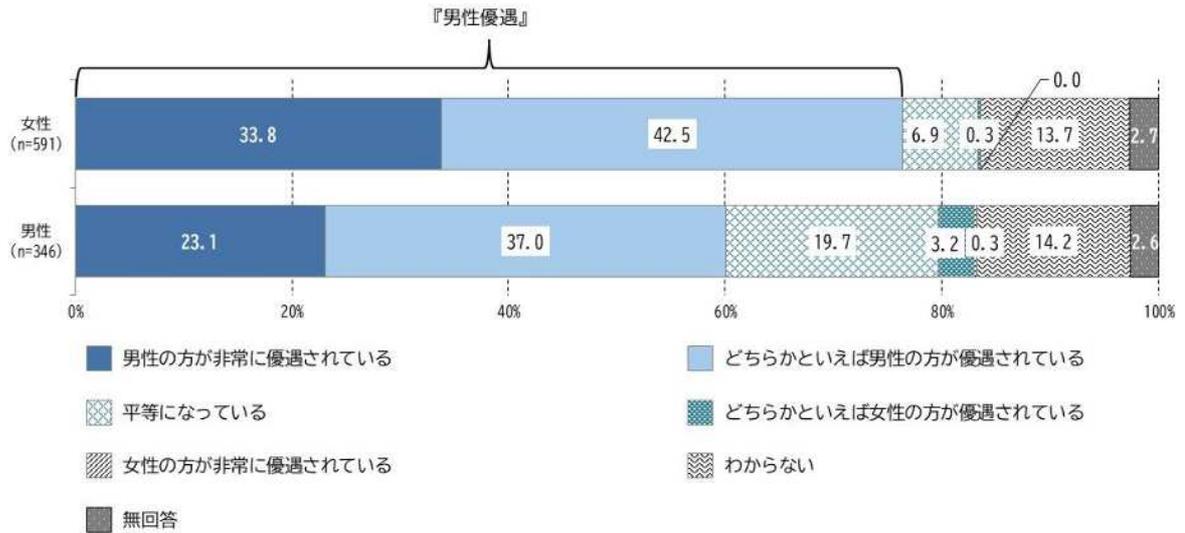


学校教育の場での男女の地位の平等感について、経年比較すると、『男性優遇』との回答は令和7年度調査(18.3%)が令和2年度調査(21.0%)を2.7ポイント、平成17年度調査(19.4%)を1.1ポイント下回っている。また、「平等になっている」との回答は令和7年度調査(45.4%)が令和2年度調査(48.9%)を3.5ポイント、平成17年度調査(56.6%)を11.2ポイント下回っている。さらに、「わからない」と回答した割合が年々増加している。

■【参考】国調査結果（学校教育の場での男女の地位の平等感）

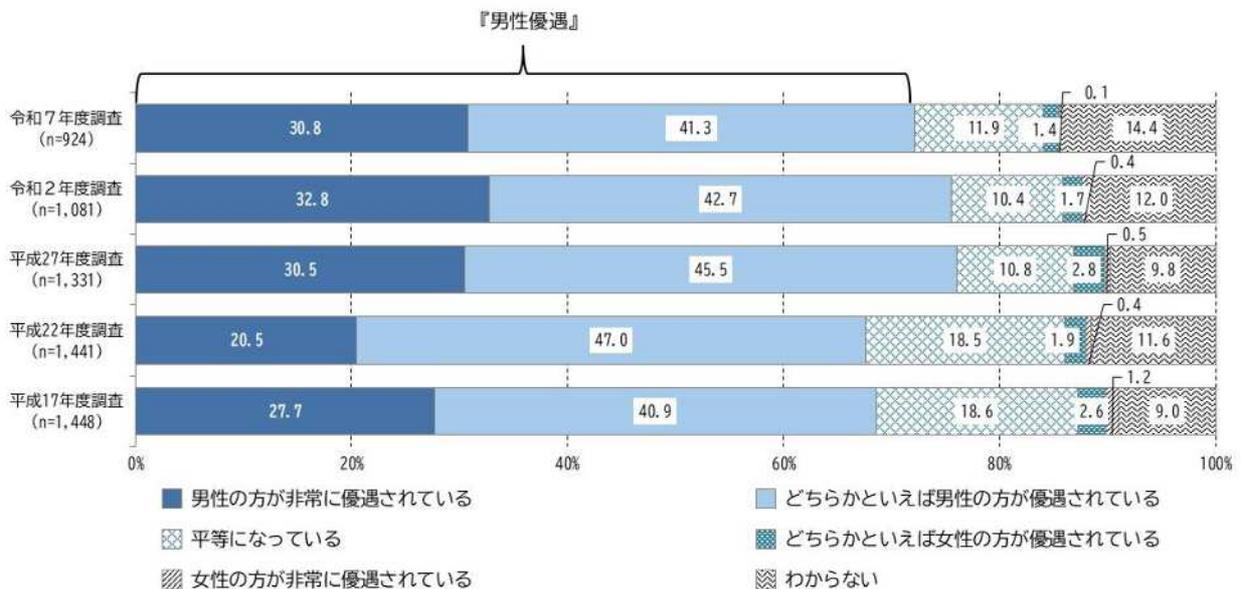


■⑤政治の場で（性別）



政治の場での男女の地位の平等感について、性別にみると、『男性優遇』との回答は女性（76.3%）が男性（60.1%）を16.2ポイント上回っている。また、「平等になっている」との回答は男性（19.7%）が女性（6.9%）を12.8ポイント上回っている。

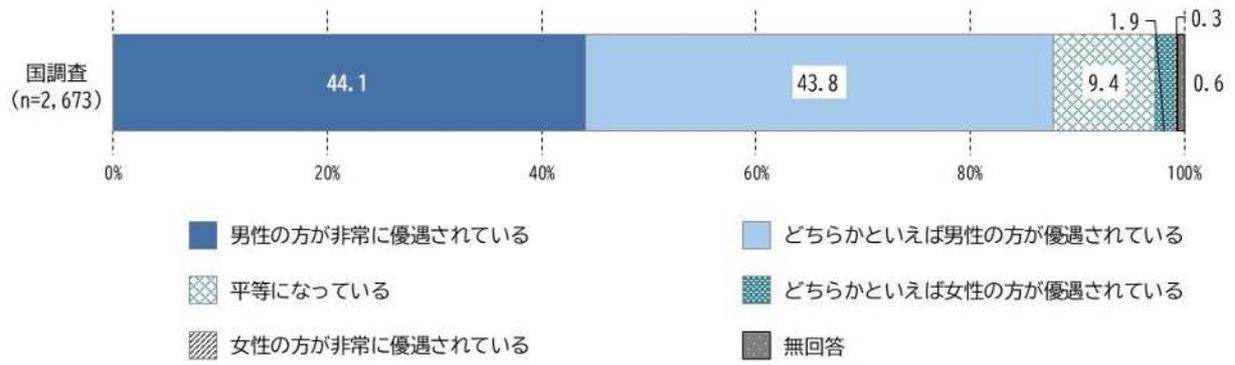
■⑤政治の場で（経年比較）



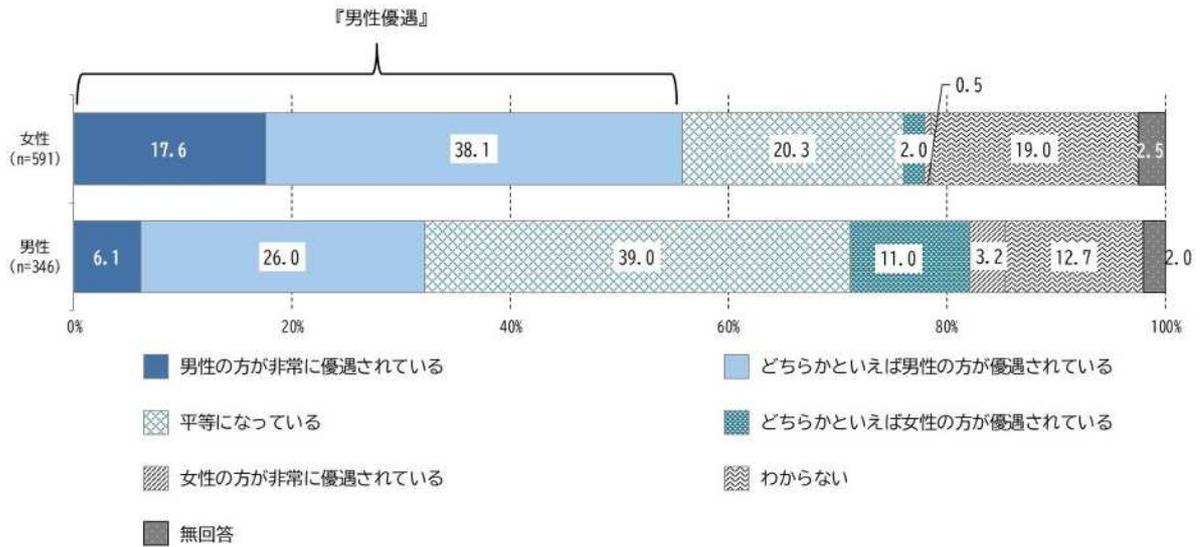
政治の場での男女の地位の平等感について、経年比較すると『男性優遇』との回答は、令和7年度調査（72.1%）が、令和2年度調査（75.5%）を3.4ポイント下回ったが、過去最低であった平成22年度調査（67.5%）を4.6ポイント上回っている。

また、「平等になっている」との回答は、令和7年度調査（11.9%）が令和2年度調査（10.4%）をわずかに上回ったものの、過去最高であった平成17年度調査（18.6%）を6.7ポイント下回っている。

■【参考】国調査結果（政治の場での男女の地位の平等感）

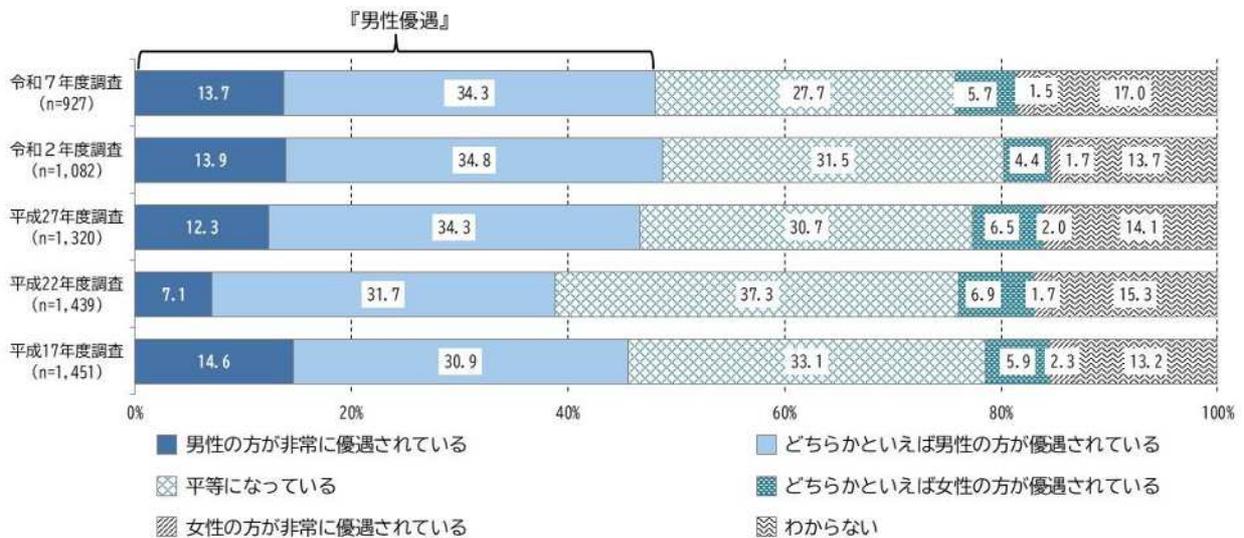


■⑥法律や制度の上で（性別）



法律や制度の上での男女の地位の平等感について、性別にみると、『男性優遇』との回答は女性（55.7%）が男性（32.1%）を23.6ポイント上回っている。また、「平等になっている」との回答は男性（39.0%）が女性（20.3%）を18.7ポイント上回っている。

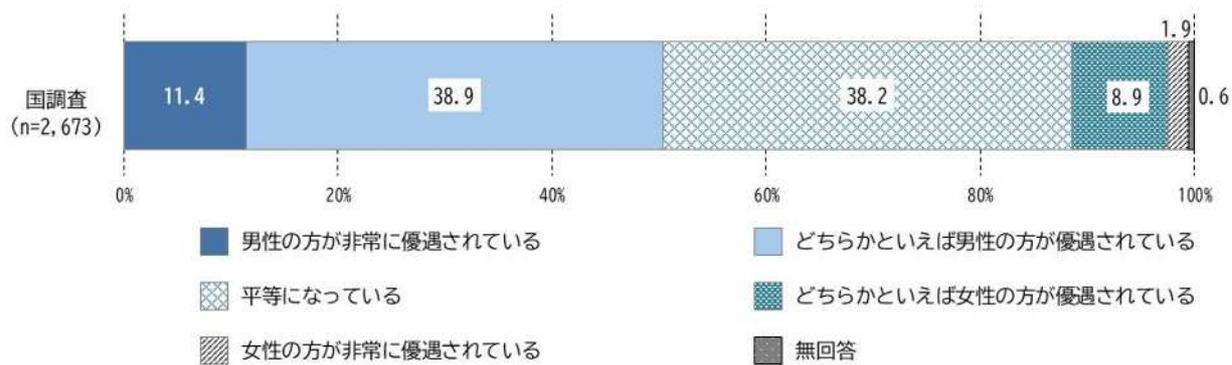
■⑥法律や制度の上で（経年比較）



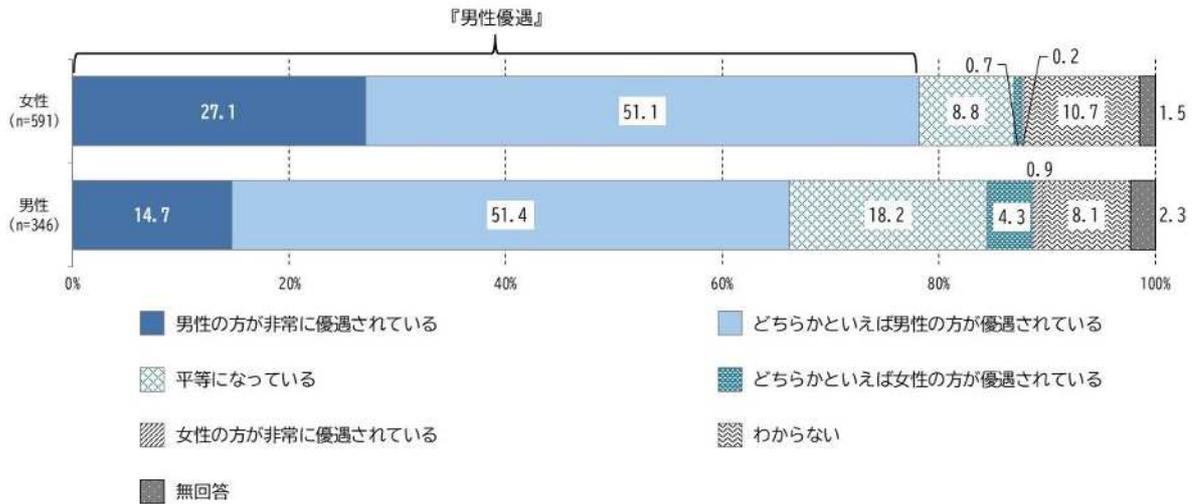
法律や制度の上での男女の地位の平等感について、経年比較すると、『男性優遇』との回答は令和7年度調査（48.0%）は令和2年度調査（48.7%）とほぼ変わっていないが、過去調査で一番低い平成22年度調査（38.8%）を9.2ポイント上回っている。

また、「平等になっている」との回答は、令和7年度調査（27.7%）は、過去の調査と比較して一番低くなっている。

■【参考】国調査結果（法律や制度の上での男女の地位の平等感）

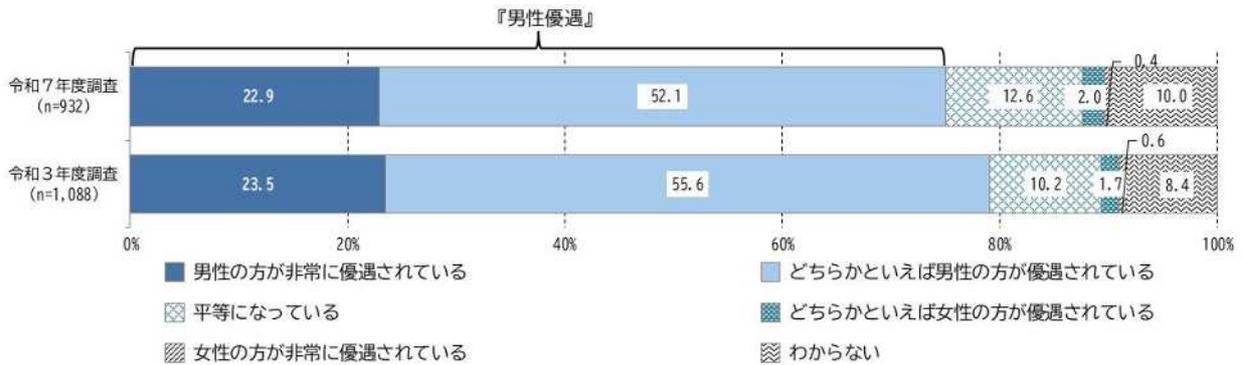


■⑦社会通念・慣習・しきたりなど（性別）



社会通念・慣習・しきたりなどでの男女の地位の平等感について、性別にみると、『男性優遇』との回答は女性（78.2%）が男性（66.1%）を12.1ポイント上回っている。また、「平等になっている」との回答は男性（18.2%）が女性（8.8%）を9.4ポイント上回っている。

■⑦社会通念・慣習・しきたりなど（経年比較）

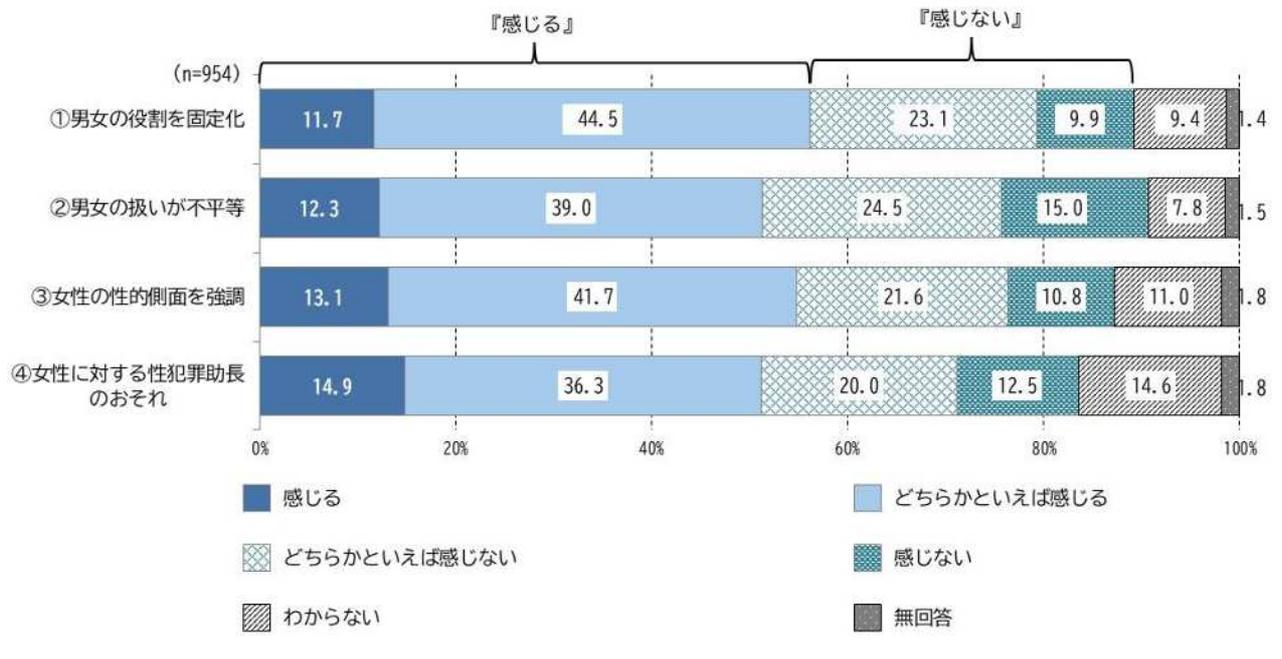


社会通念・慣習・しきたりなどにおける男女の地位の平等感について、経年比較すると、『男性優遇』との回答は令和7年度調査（75.0%）が令和3年度調査（79.1%）を4.1ポイント下回っている。また、「平等になっている」との回答は令和7年度調査（12.6%）が令和3年度調査（10.2%）を2.4ポイント上回っている。

■【参考】国調査結果（社会通念・慣習・しきたりなどの男女の地位の平等感）

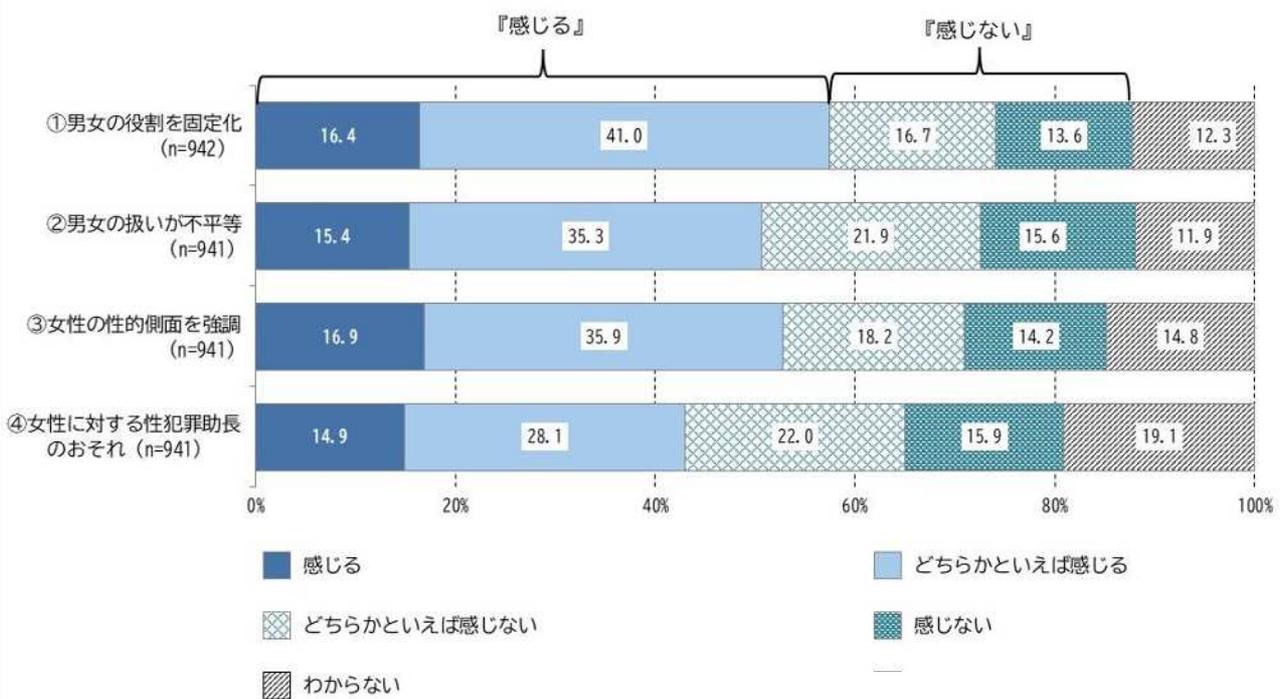


問6 新聞・テレビ・インターネット上の広告や番組等を見て、あなたは、次の①から④についてどのように感じたことがありますか。(〇はそれぞれに1つだけ)

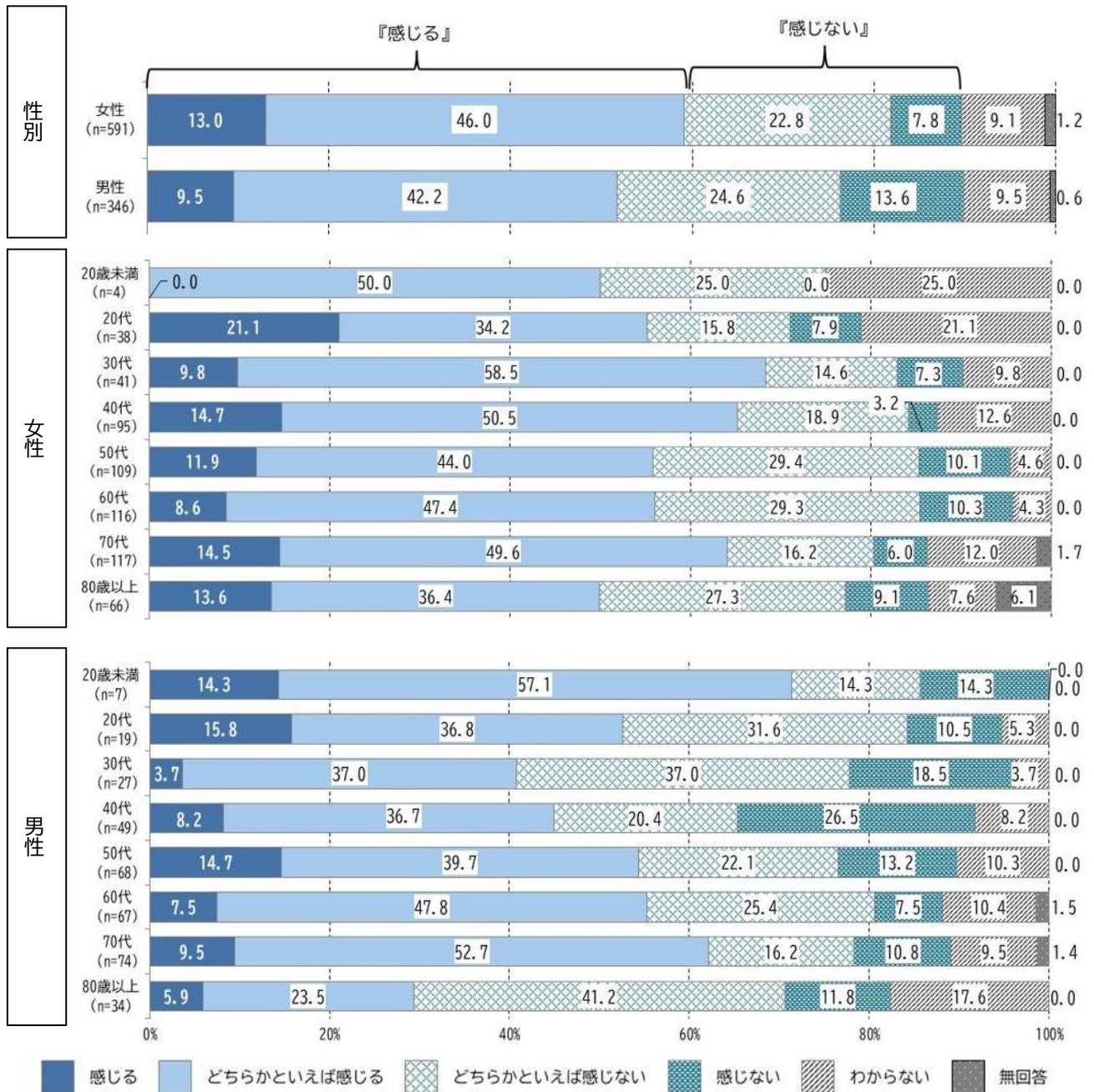


メディアにおいて性差別的表現を感じたことの有無について、『感じる』（「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合わせた割合）との回答は、「①男女の役割を固定化」で約6割、「③女性の性的側面を強調」で5割超となっている。

■【参考】令和2年度調査（メディアを視る視点について）



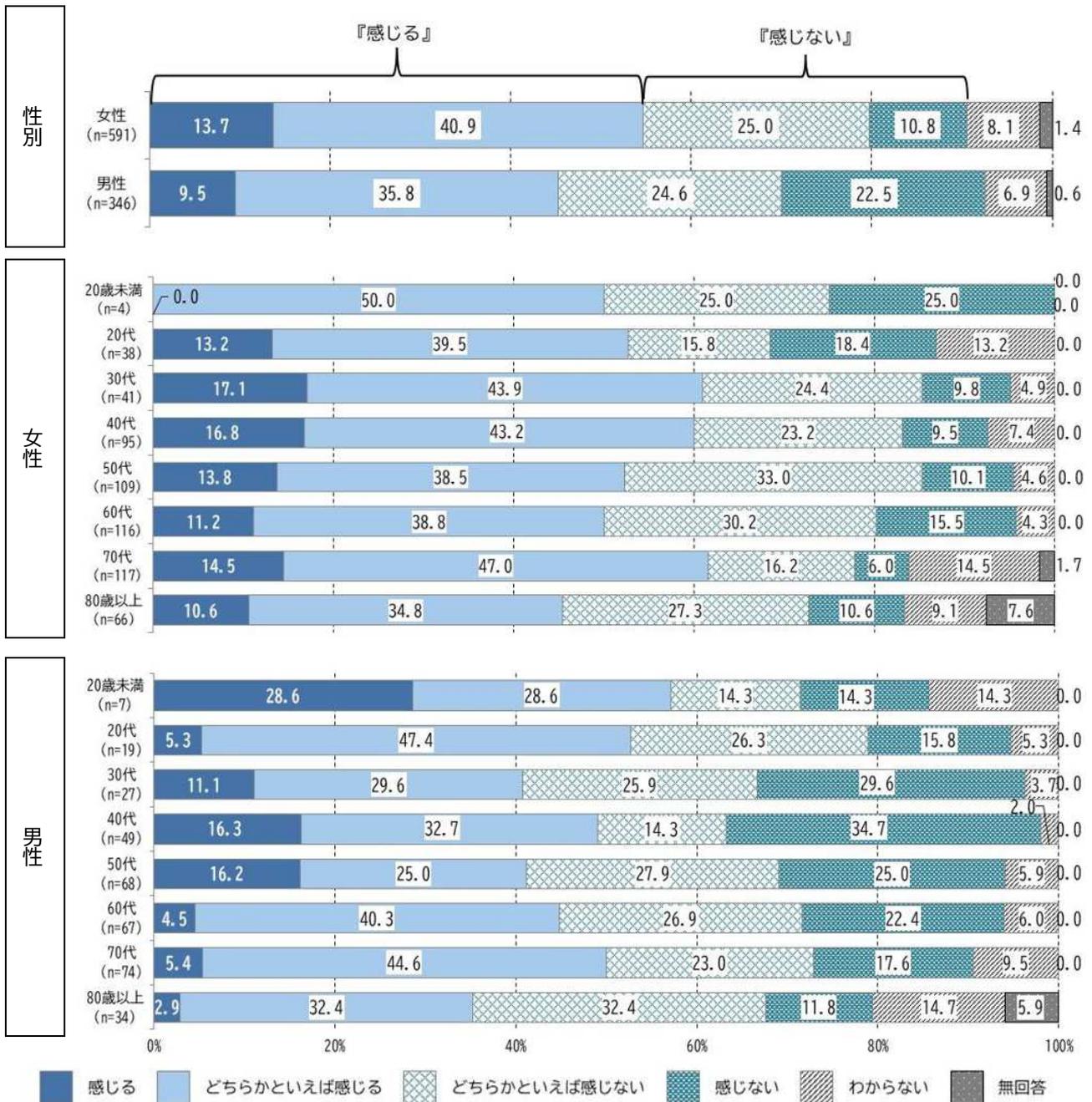
■①男女の役割を固定化（性別、性・年代別）



メディアにおいて男女の役割の固定化を感じたことの有無について、性別にみると、『感じる』との回答は女性（59.0%）が男性（51.7%）を7.3ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『感じる』との回答は、女性はいずれの年代も5割を超えているが、男性は、30代、40代、80歳以上で5割を下回っている。

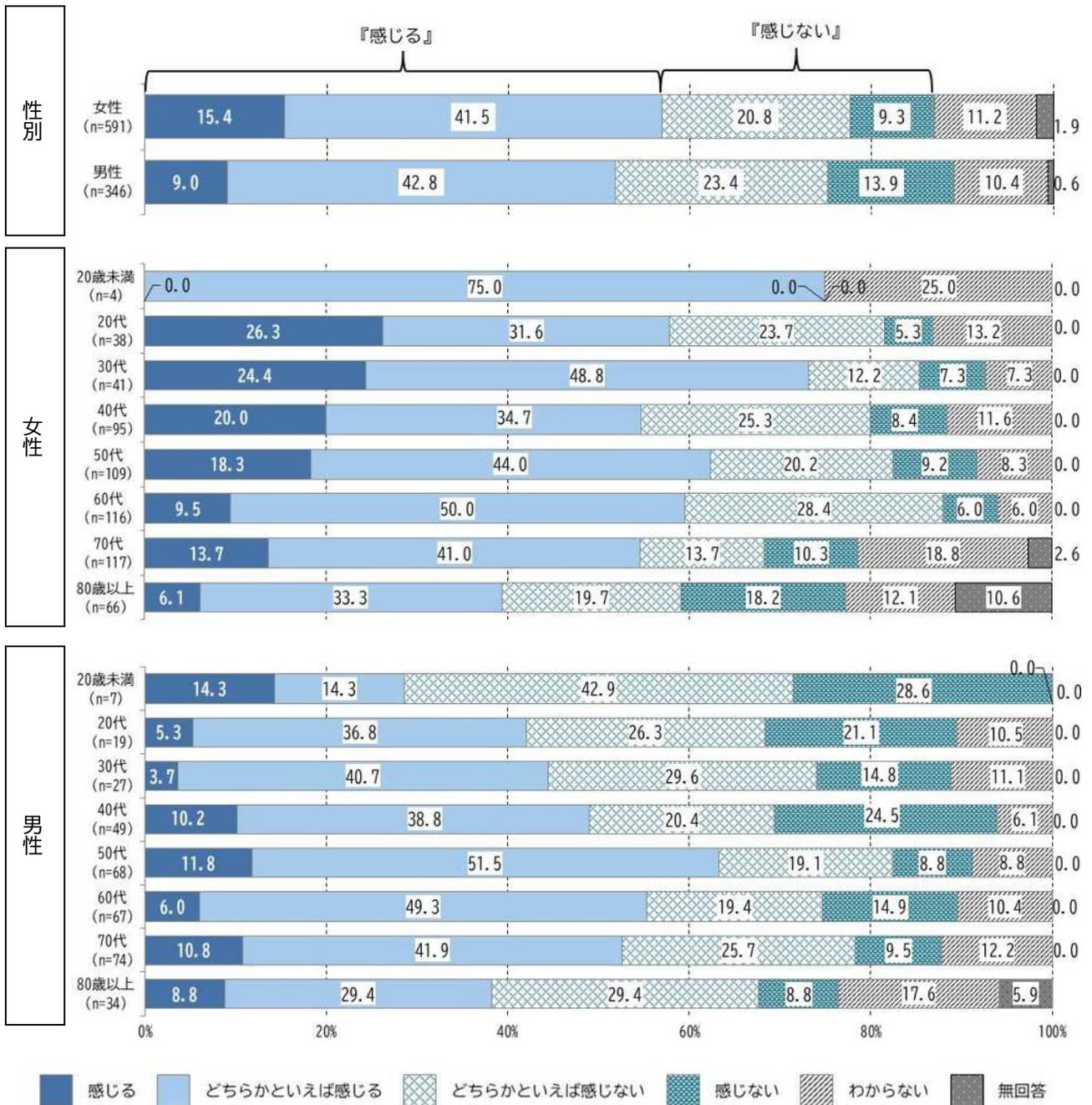
■②男女の扱いが不平等（性別、性・年代別）



メディアにおいて男女の扱いが不平等と感じたことの有無について、性別にみると、『感じる』との回答は女性（54.6%）が男性（45.3%）を9.3ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『感じる』との回答は、女性は80歳以上を除くすべての年代で5割を超えているが、男性は、30代、50代、60代、80歳以上では5割を下回っている。

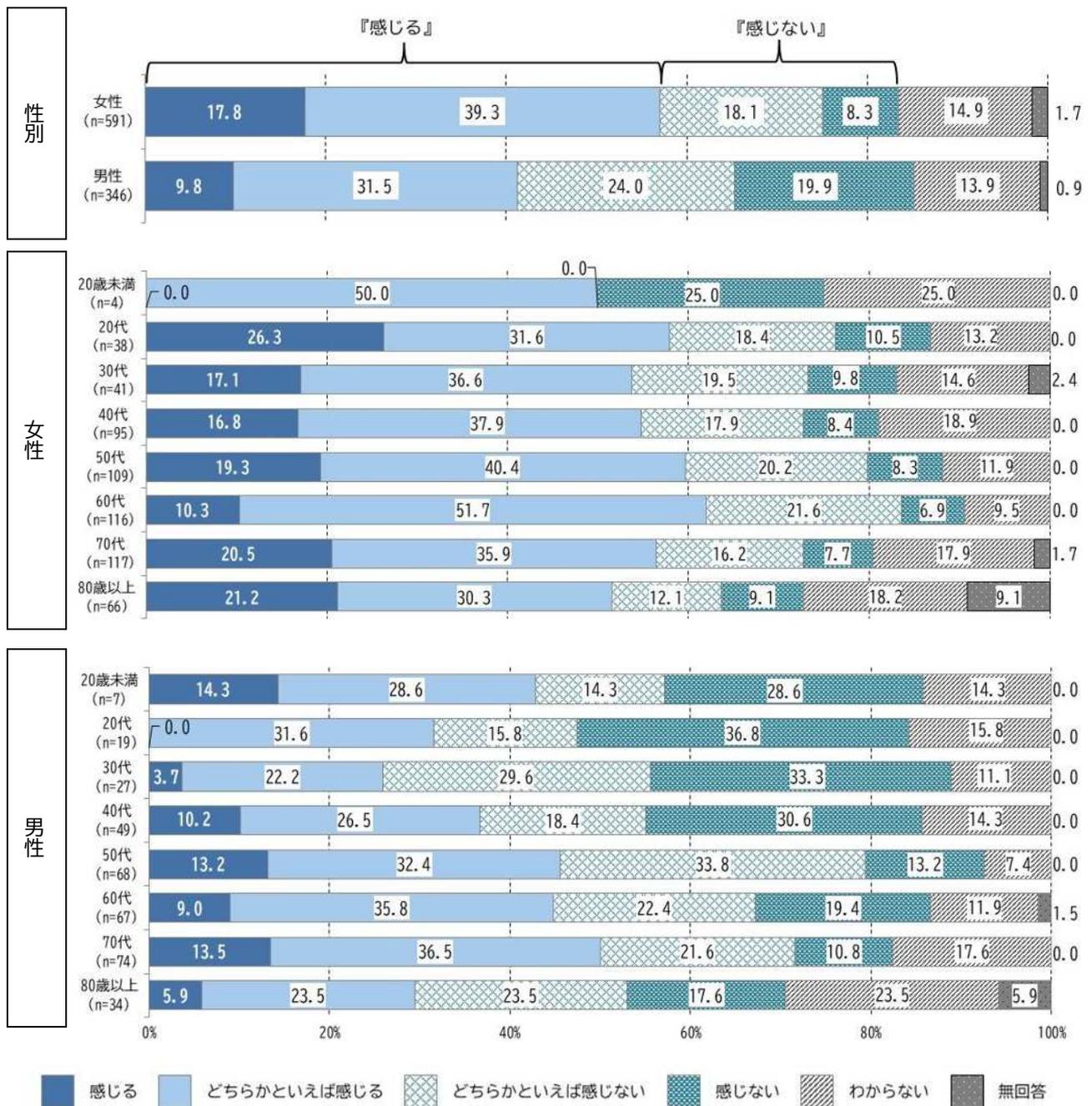
■③女性の性的側面を強調（性別、性・年代別）



メディアにおいて女性の性的側面を強調していると感じたことの有無について、性別にみると、『感じる』との回答は女性（56.9%）が男性（51.8%）を5.1ポイント上回っている。

性・年代別でみると、『感じる』と回答した女性は、年代が上がるにつれて割合が下がる傾向がみられ、男性は、50代までは割合が上がるが、60代以降は下がっている。

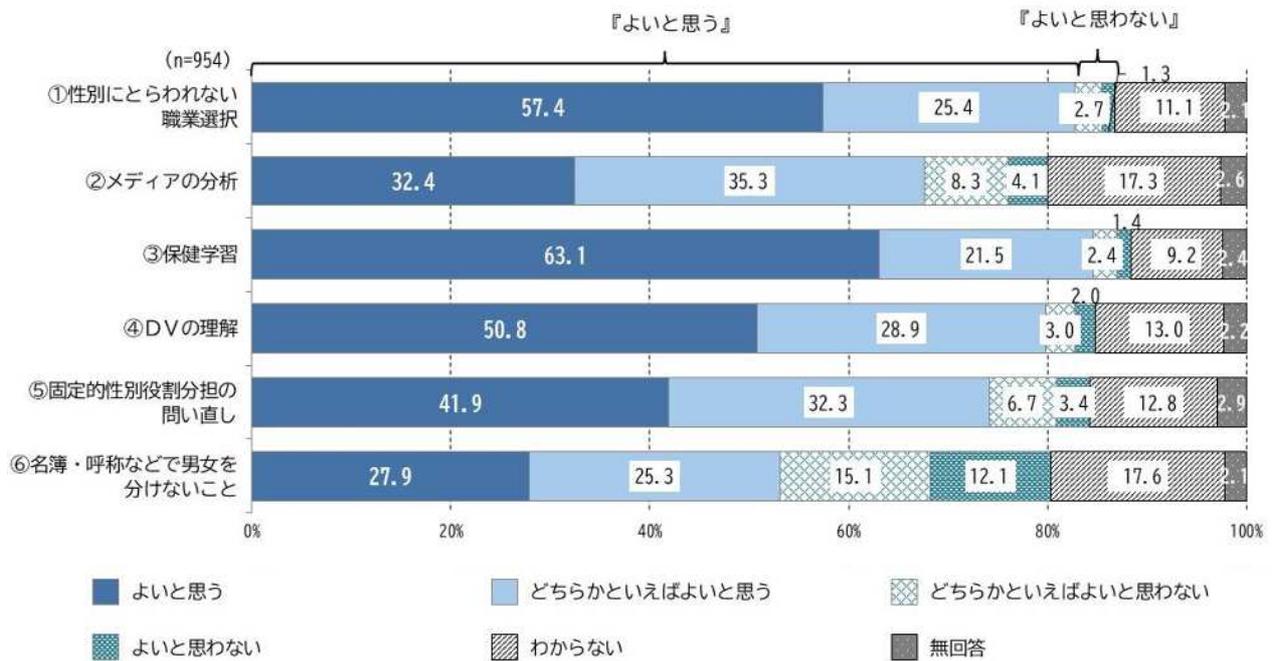
■④女性に対する性犯罪助長のおそれ（性別、性・年代別）



メディアにおいて女性に対する性犯罪助長のおそれを感じたことの有無について、性別にみると、『感じる』との回答は女性（57.1%）が男性（41.3%）を15.8ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『感じる』との回答は女性の20代(57.9%)が、男性の20代(31.6%)を26.3ポイント上回っており、同じ年代でも性別の違いで大きな差が生じている。

問7 市内の小中学校では、学校教育のあらゆる機会や場面を通して、児童・生徒の発達段階に応じた男女平等教育を推進していますが、あなたは、次の①から⑥の取組についてどのように思いますか。(〇はそれぞれに1つだけ)



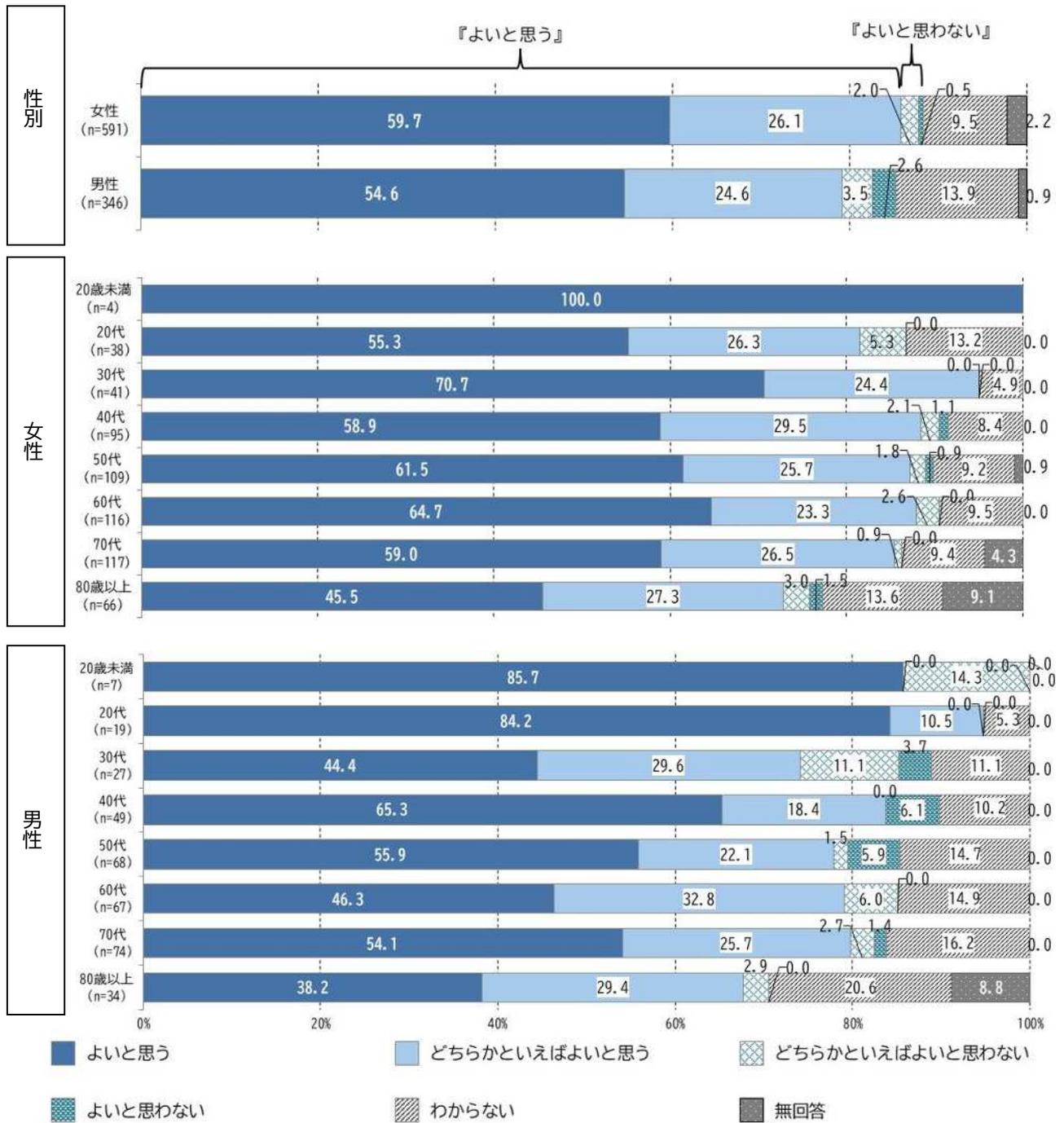
※回答項目は以下の通り

- ①性別にかかわらず、自分の適性や興味・関心を踏まえた職業選択をすることの大切さを理解できるような授業を行う
- ②メディア（テレビ・新聞など）に登場する男女の描かれ方を調べ、「男女の表現」のし方、され方への問題意識を高めることができるような授業を行う
- ③性情報への対処や性感染症などについて学習することを通じて、自分を大事にし、相手も大事にしながらいこうとする気持ちをもつことができるようにする
- ④DVの実態を知り、被害者や加害者の気持ちを考えることでDVの本質を理解できるような授業を行う
- ⑤学校生活や家庭生活において、性別による固定的な役割分担が行われていないかを考えることができるような授業を行う
- ⑥男女別名簿・呼称（さん・君など）などで、男女を分けないようにする

男女平等教育について、『よいと思う』（「よいと思う」と「どちらかといえばよいと思う」を合わせた割合）との回答は「保健学習」（84.6%）、「性別にとらわれない職業選択」（82.8%）、「DVの理解」（79.7%）で8割前後となっている。一方、『よいと思わない』（「よいと思わない」と「どちらかといえばよいと思わない」を合わせた割合）との回答は「名簿・呼称などで男女を分けないこと」（27.2%）で2割台後半となっている。



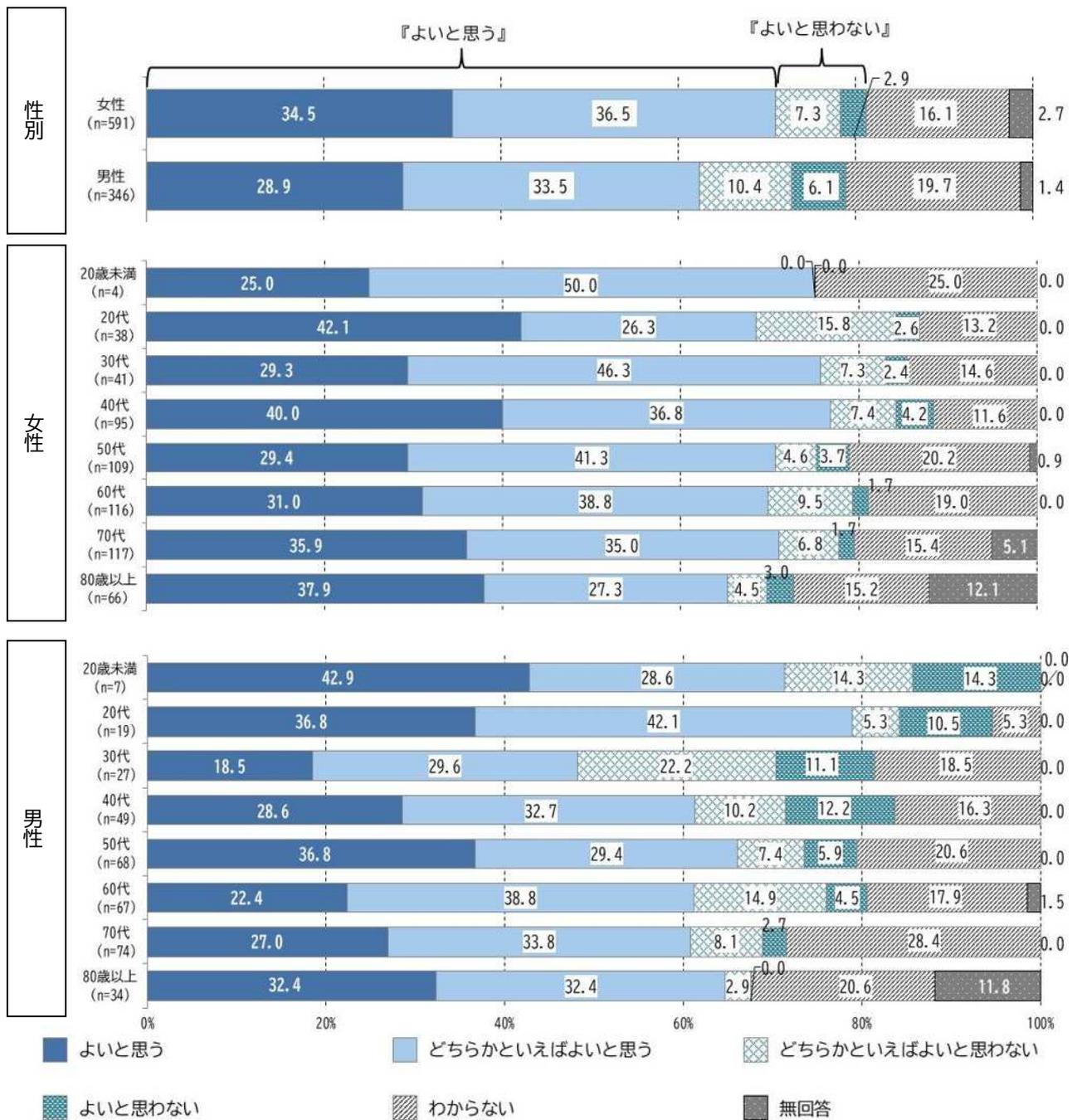
■①性別にとらわれない職業選択（性別、性・年代別）



性別にとらわれない職業選択に関する男女平等教育について、性別にみると、『よいと思う』との回答は女性（85.8%）が男性（79.2%）を6.6ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『よいと思う』との割合はすべての性・年代で6割を超えている。

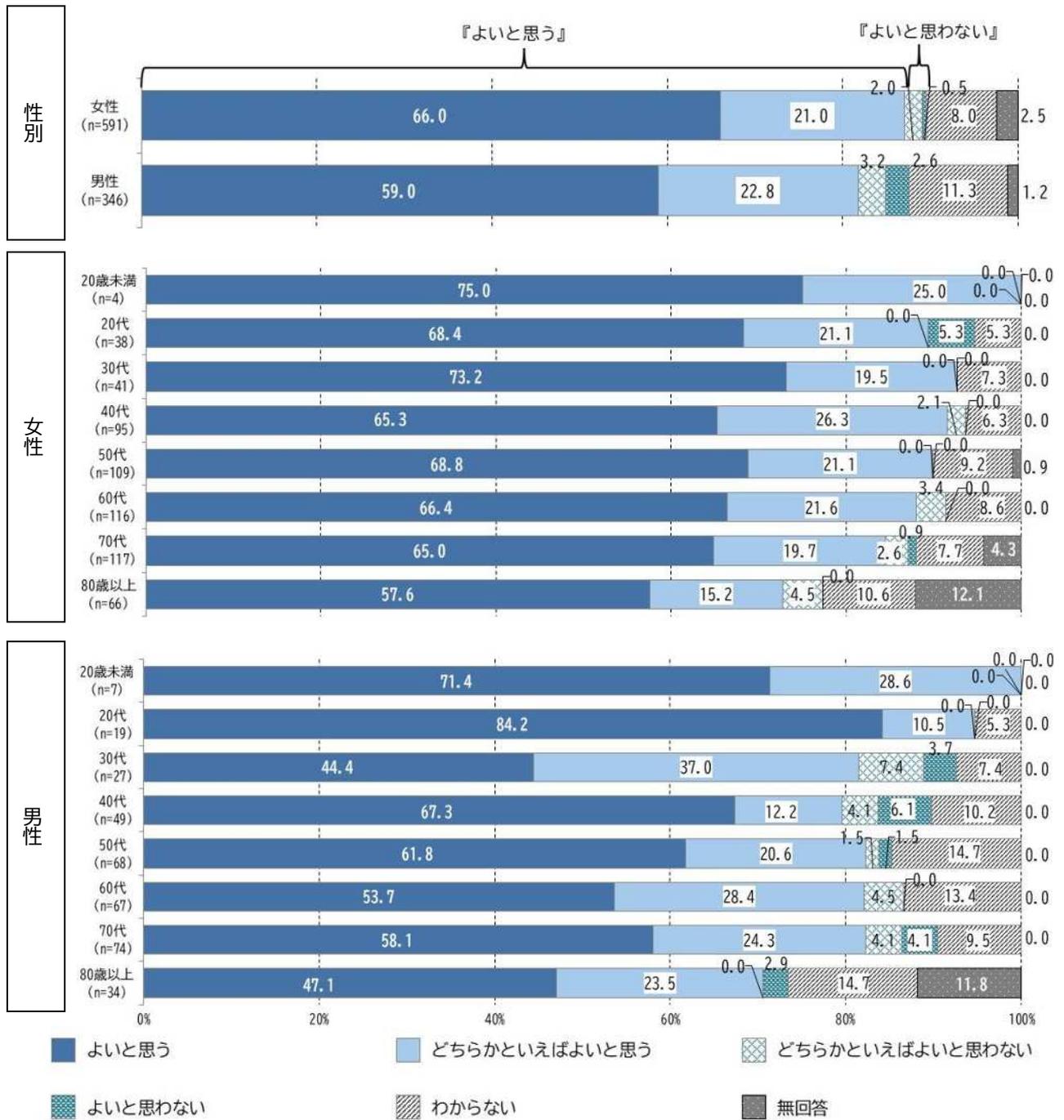
■②メディアの分析（性別、性・年代別）



メディアの分析に関する男女平等教育について、性別にみると、『よいと思う』との回答は女性（71.0%）が男性（62.4%）を8.6ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『よいと思う』との回答は30代男性だけが5割を切っている。

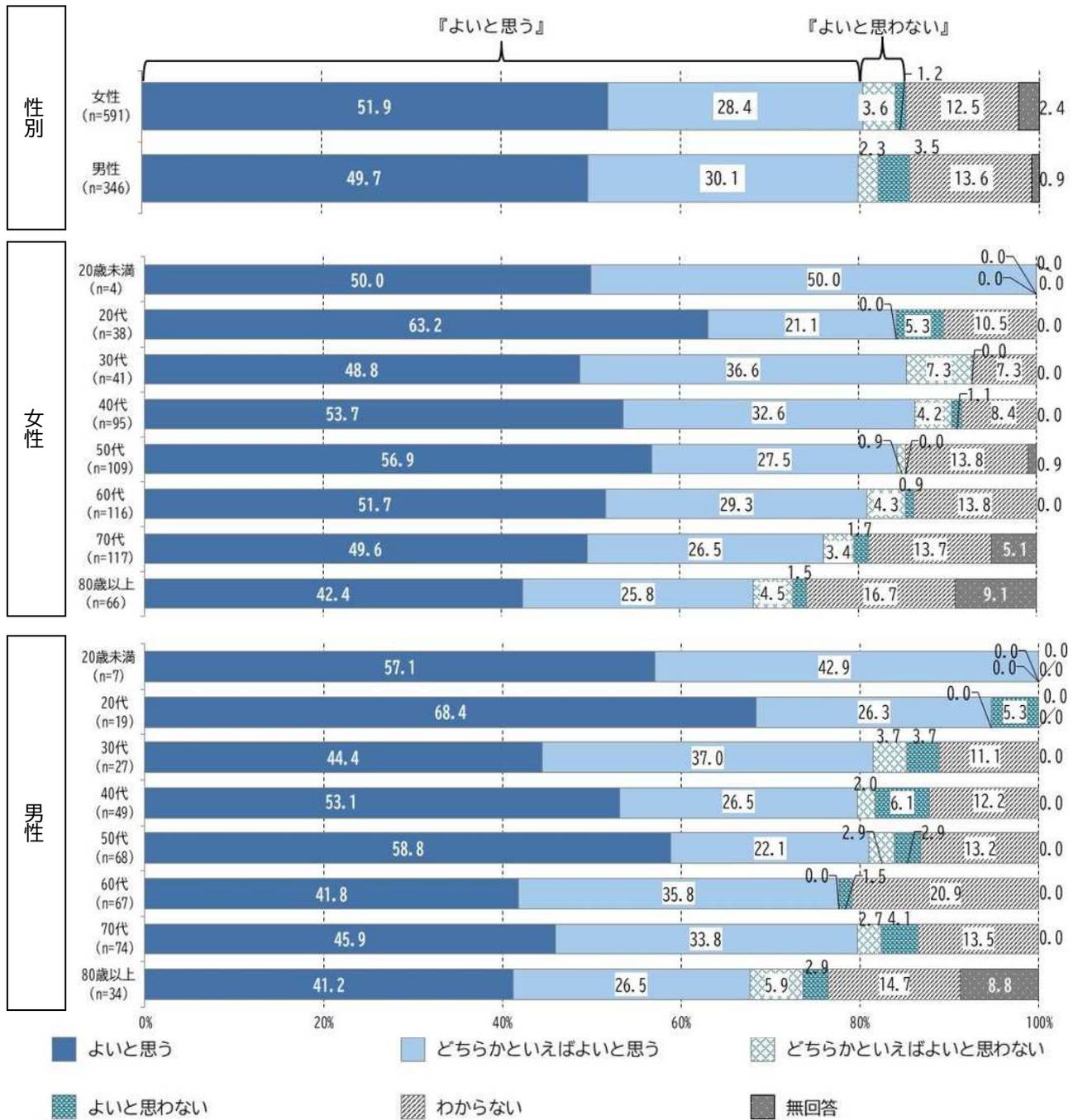
■③保健学習（性別、性・年代別）



保健学習に関する男女平等教育において、性別にみると、『よいと思う』との回答は男女ともにおおむね8割台と大きな差はみられない。

性・年代別にみると、『よいと思う』との回答は、女性の20歳未満と男性の20歳未満で100.0%となっている一方で、女性の80歳以上(72.8%)と男性の80歳以上(70.6%)は7割台となっている。

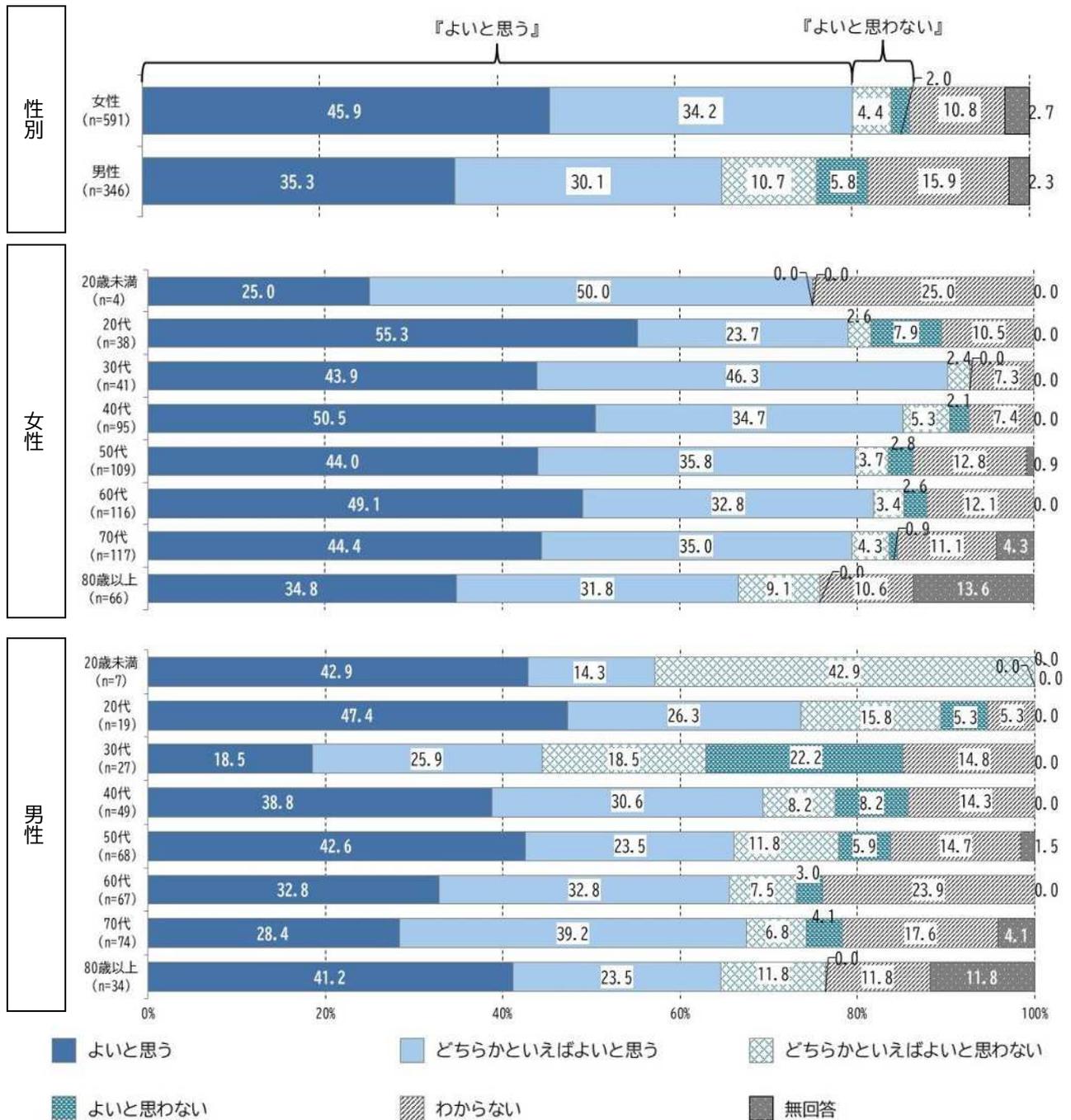
■④DVの理解（性別、性・年代別）



DVの理解に関する男女平等教育について、性別にみると、『よいと思う』との回答は男女ともにおおむね8割台と大きな差はみられない。

性・年代別にみると、『よいと思う』との回答は、女性の60代以下と男性30代以下、50代で8割を超えている。

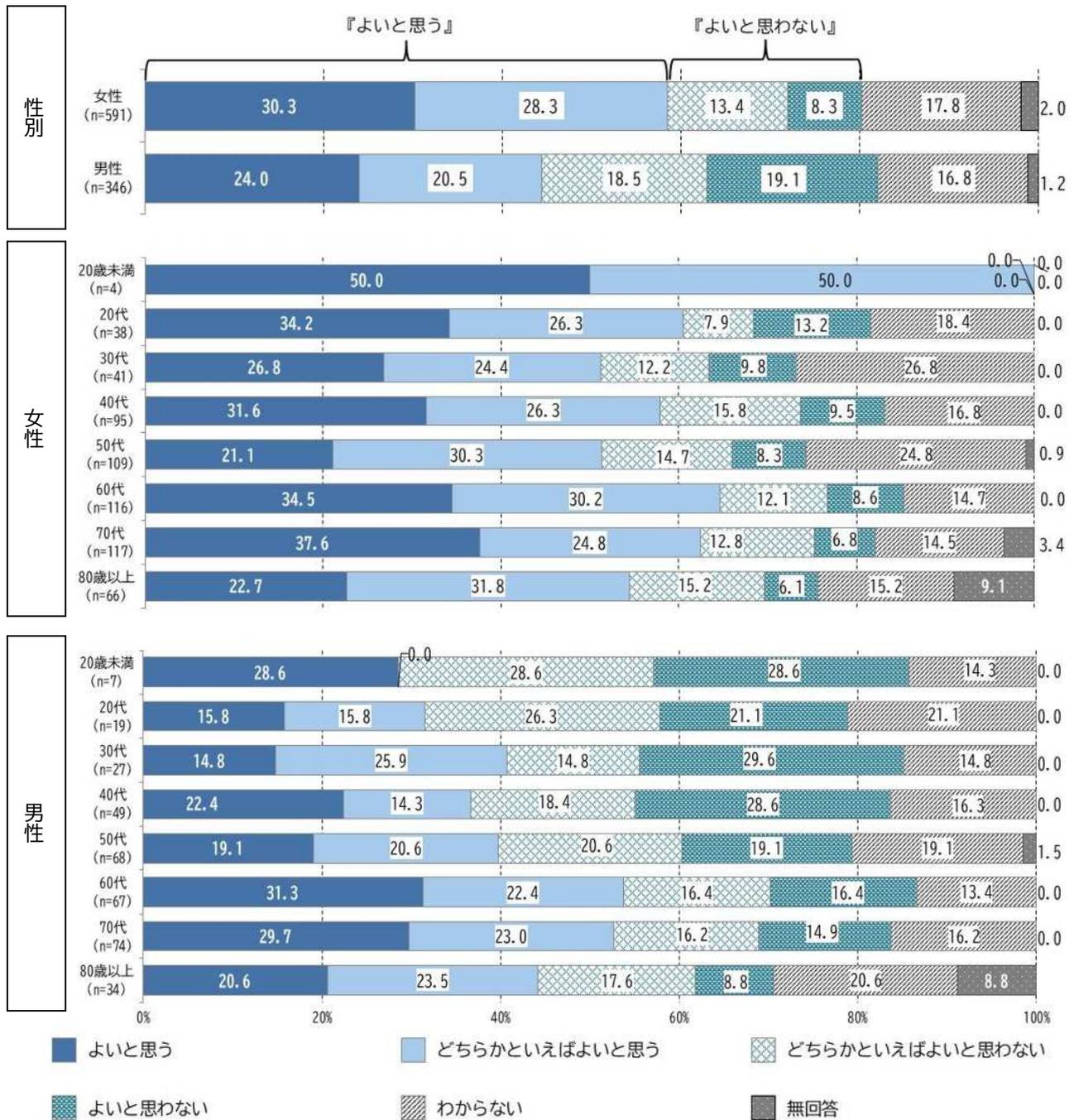
■⑤固定的性別役割分担の問い直し（性別、性・年代別）



固定的性別役割分担の問い直しに関する男女平等教育について、性別にみると、『よいと思う』との回答は女性（80.1%）が男性（65.4%）を14.7ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『よいと思う』との回答は、女性の30代、40代、60代で8割を超えており、一方で、男性の30代は4割半ばと低くなっている。

■⑥名簿・呼称などで男女を分けないこと（性別、性・年代別）

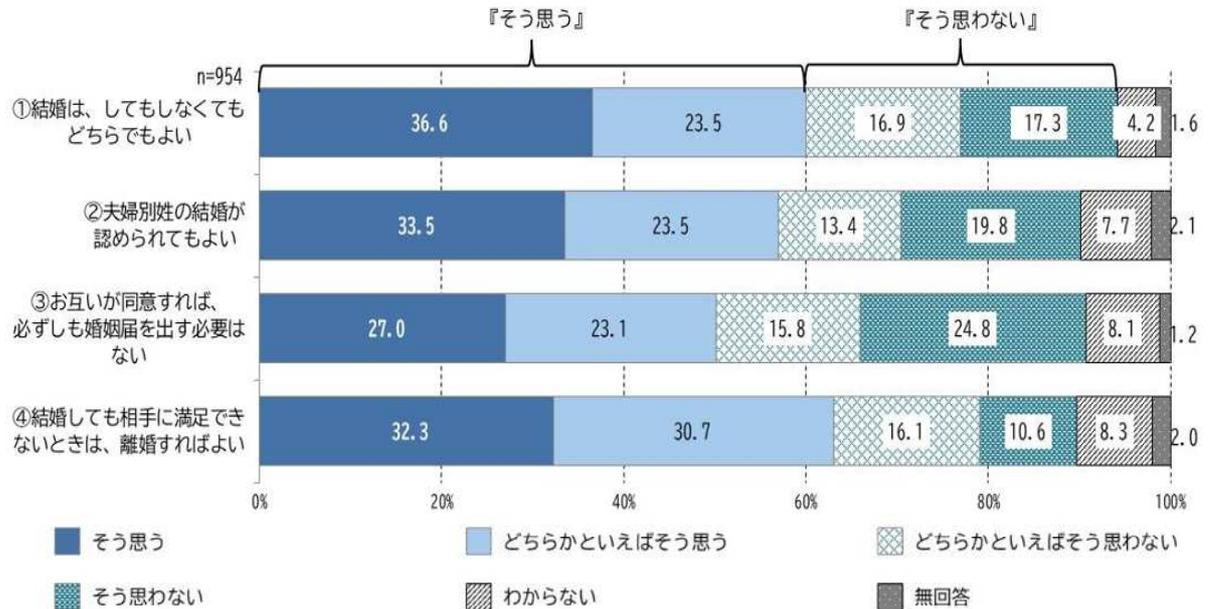


名簿・呼称などで男女を分けないことに関する男女平等教育について、性別にみると、『よいと思う』との回答は女性（58.6%）が男性（44.5%）を14.1ポイント上回っている。

性・年代別にみると、男性の20代、30代、40代では、『よいと思う』との回答は『よいと思わない』を下回っている。

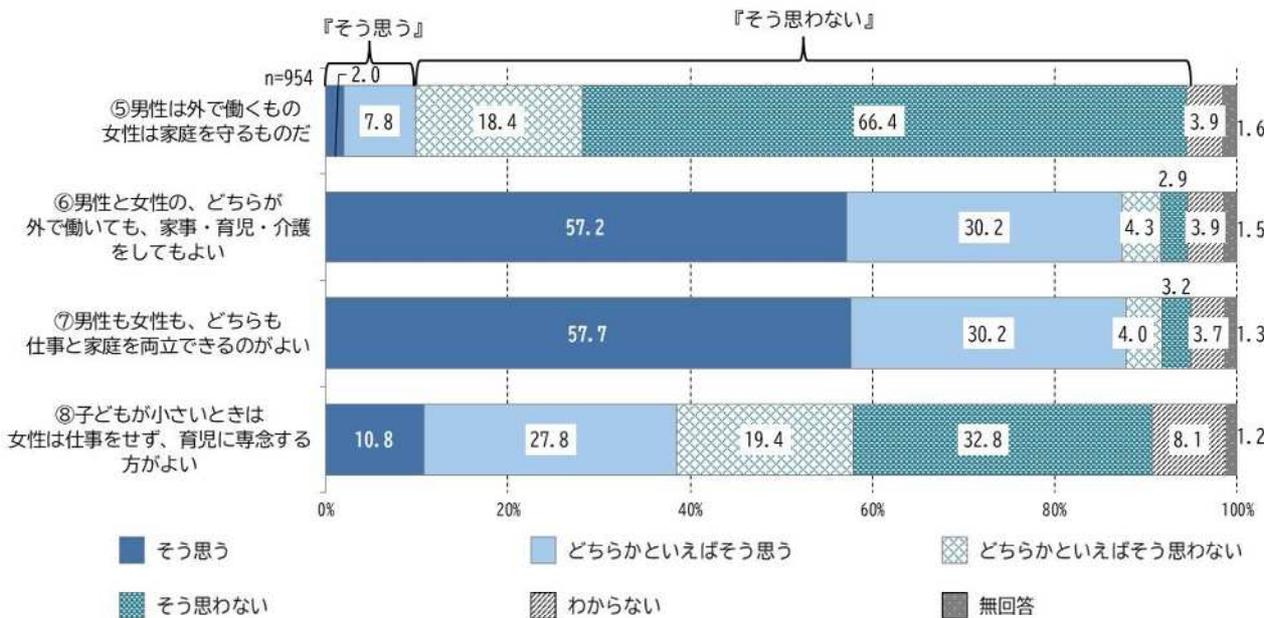
問8 結婚や家庭生活について、次の①から⑧のような考え方について、あなたはどのように思いますか。(〇はそれぞれに1つだけ)

【結婚について：①～④】



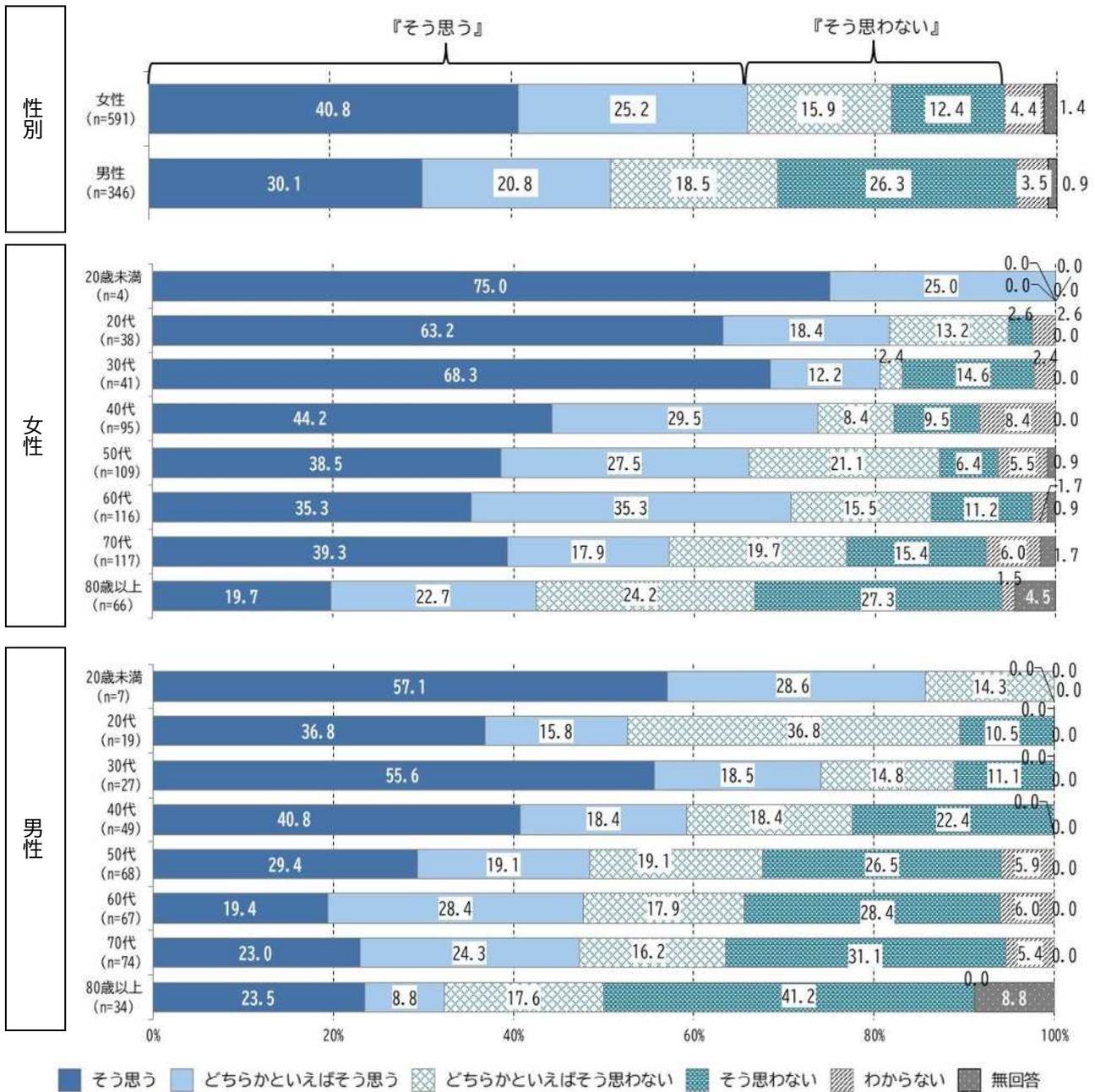
結婚に関する考え方についてみると、『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）との回答は、「①結婚は、してもしなくてもどちらでもよい」、「④結婚しても相手に満足できないときは、離婚すればよい」が6割台、「②夫婦別姓の結婚が認められてもよい」が5割半ばとなっている。

【家庭生活について：⑤～⑧】



家庭生活の考え方について、『そう思う』との回答は「⑥男性と女性の、どちらが外で働いても、家事・育児・介護をしてもよい」、「⑦男性も女性も、どちらも仕事と家庭を両立できるのがよい」で9割弱となっている。一方、『そう思わない』との回答は「⑤男性は外で働くもの、女性は家庭を守るものだ」が約9割近くとなっている。

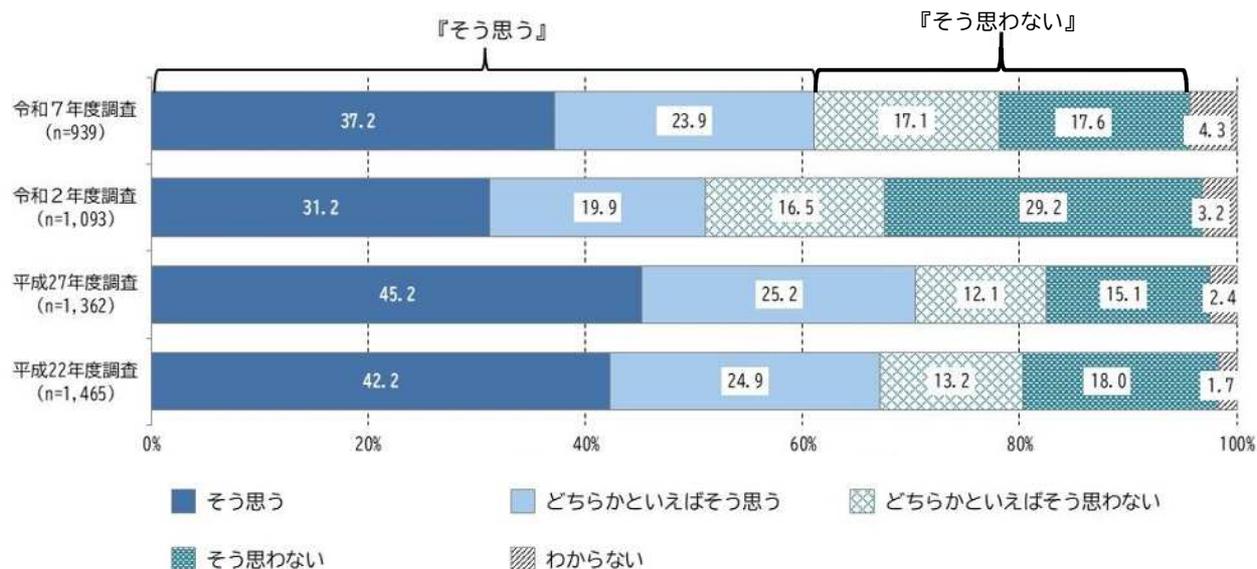
■①結婚は、してもしなくてもどちらでもよい（性別、性・年代別）



結婚は、してもしなくてもどちらでもよいとの考え方について、性別にみると、『そう思う』との回答は女性（66.0%）が男性（50.9%）を15.1ポイント上回っている。

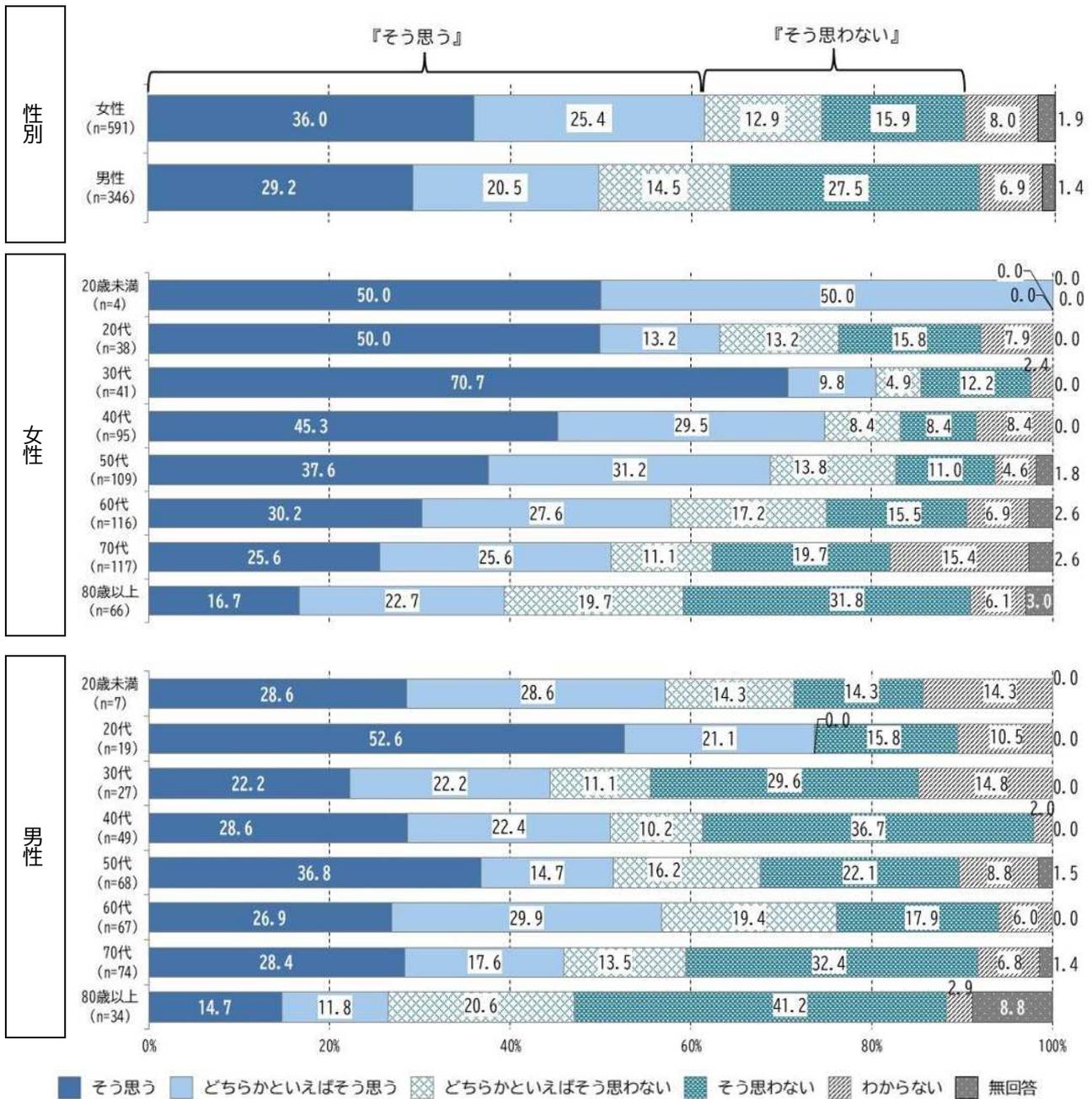
性・年代別にみると、『そう思う』との回答は、女性20歳未満から40代、60代、男性20歳未満、30代で7割を超えている。

■①結婚は、してもしなくてもどちらでもよい（経年比較）



結婚は、してもしなくてもどちらでもよいとの考え方について、経年比較すると、『そう思う』との回答は平成27年度調査（70.4%）が最も高く、次いで、平成22年度調査（67.1%）、令和7年度調査（61.1%）、令和2年度調査（51.1%）となっている。

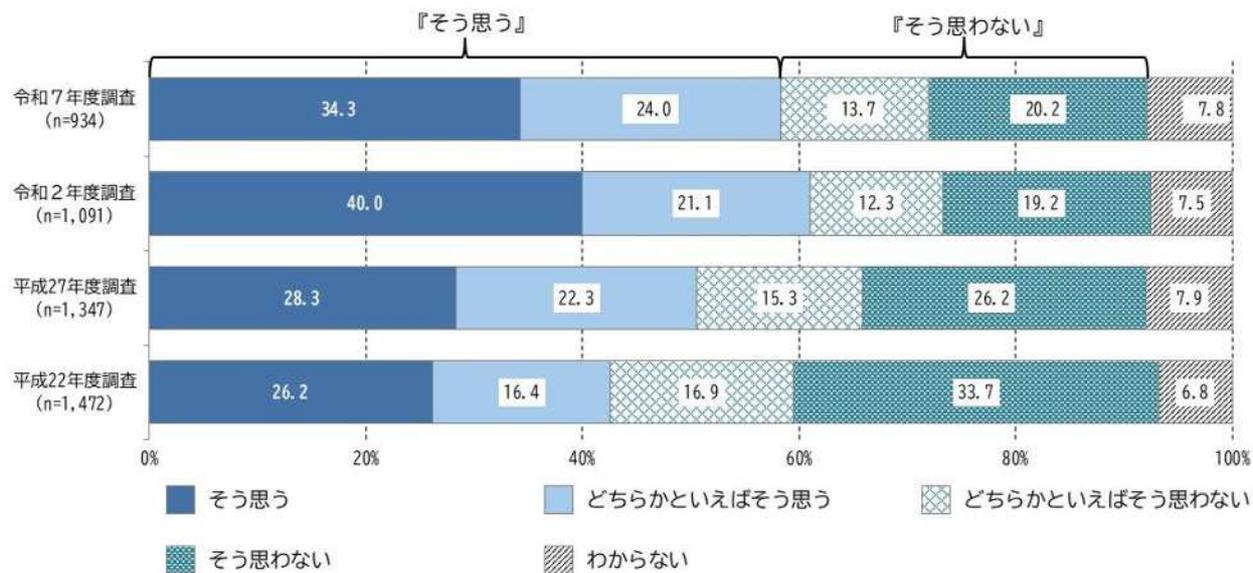
■②夫婦別姓の結婚が認められてもよい（性別、性・年代別）



夫婦別姓の結婚が認められてもよいとの考え方について、性別にみると、『そう思う』との回答は女性（61.4%）が男性（49.7%）を11.7ポイント上回っている。

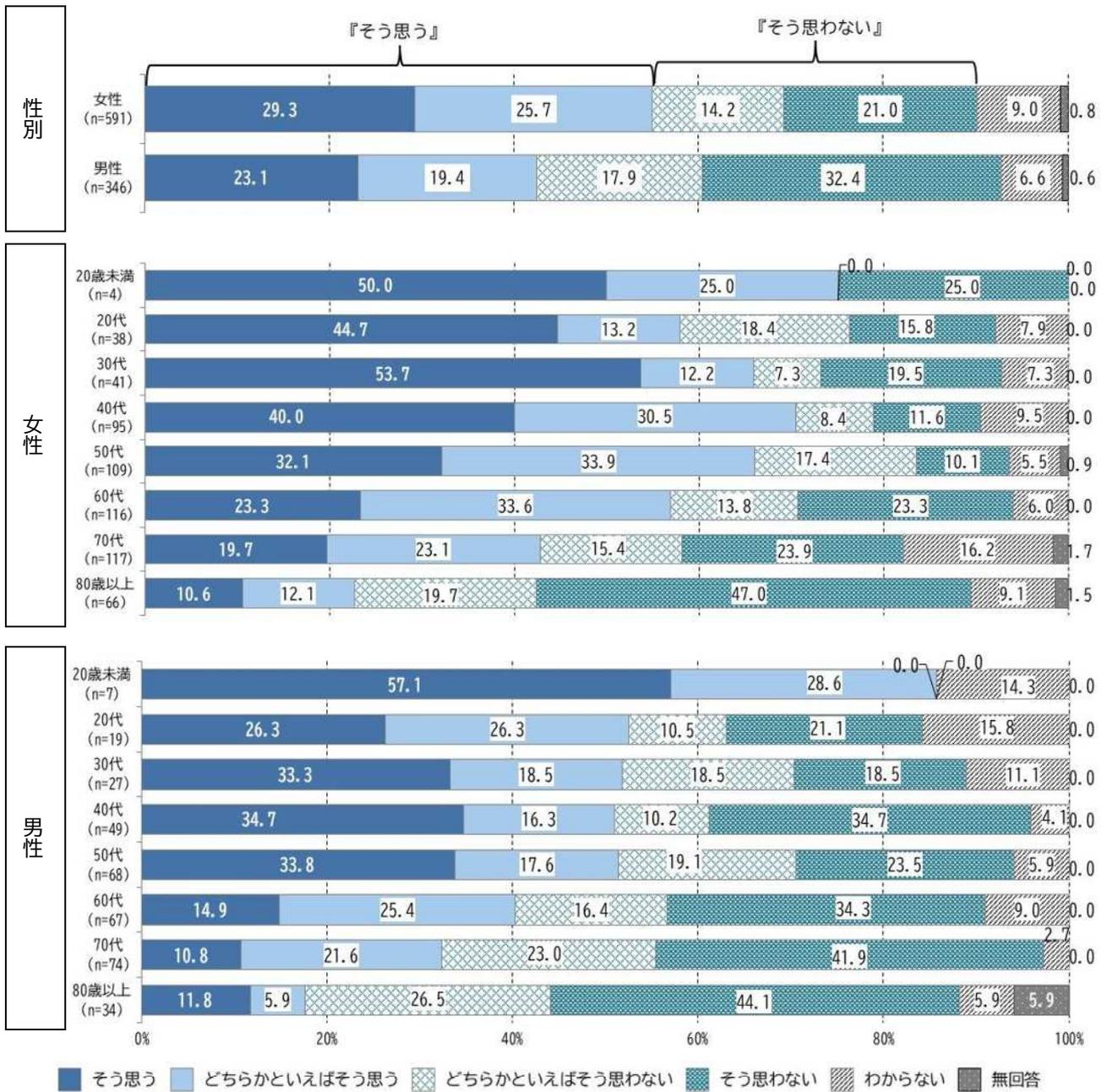
性・年代別にみると、『そう思う』との回答は女性の20歳未満、30代で8割を超えており、特に女性30代は「そう思う」との回答が70.7%となっている。一方で、『そう思わない』との回答は男性30代、40代、70代超、女性80歳以上で4割～6割となっている。

■②夫婦別姓の結婚が認められてもよい（経年比較）



夫婦別姓の結婚が認められてもよいとの考え方について、経年比較すると、『そう思う』との回答は令和7年度調査（58.3%）が令和2年度調査（61.1%）を2.8ポイント下回っている。

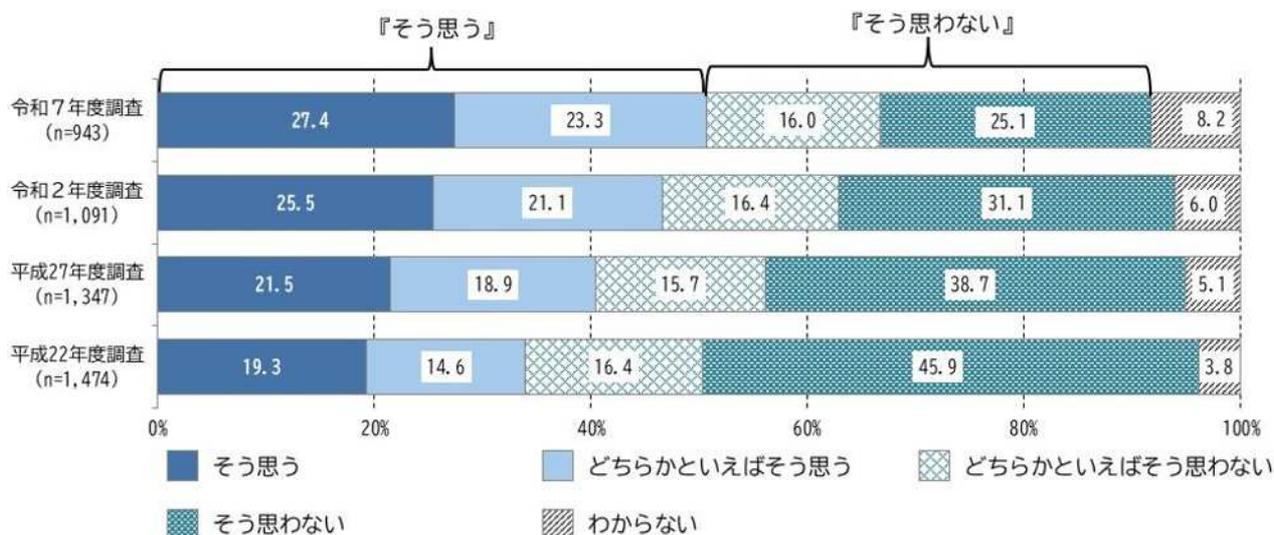
■③お互いが同意すれば、必ずしも婚姻届を出す必要はない（性別、性・年代別）



お互いが同意すれば、必ずしも婚姻届を出す必要はないとの考え方について、性別にみると、『そう思う』との回答は女性（55.0%）が男性（42.5%）を12.5ポイント上回っている。

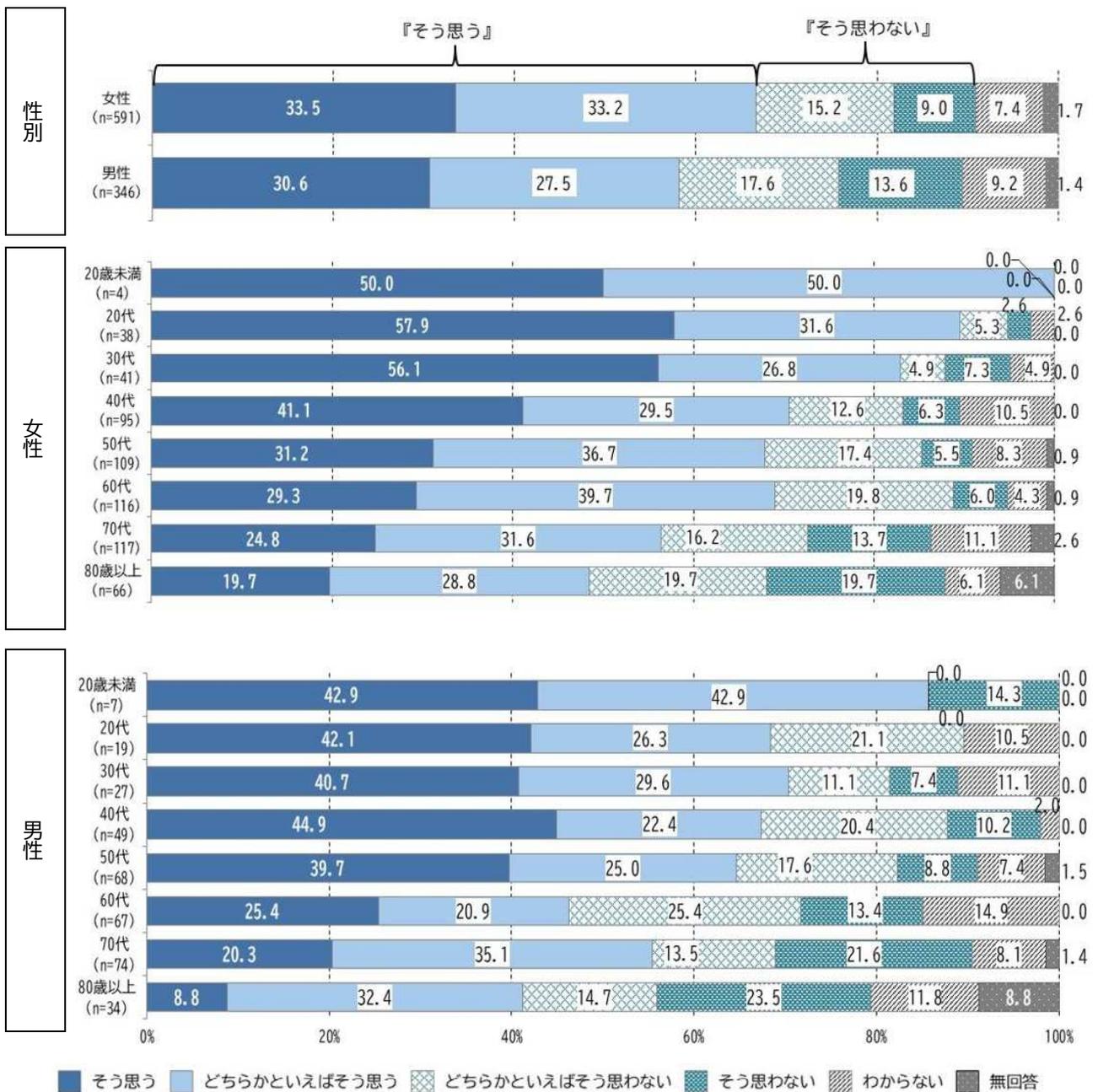
性・年代別にみると、『そう思う』との回答は女性20歳未満、30代から50代、男性20歳未満では6割を超える一方で、女性80歳以上、男性60代から80歳以上では、『そう思わない』との回答が『そう思う』との回答を上回っている。

■③お互いが同意すれば、必ずしも婚姻届を出す必要はない（経年比較）



お互いが同意すれば、必ずしも婚姻届を出す必要はないとの考え方について、経年比較すると、『そう思う』との回答は令和7年度調査（50.7%）が令和2年度調査（46.6%）を4.1ポイント、平成27年度調査（40.4%）を10.3ポイント、平成22年度調査（33.9%）を16.8ポイント上回っており、一番高い割合となっている。

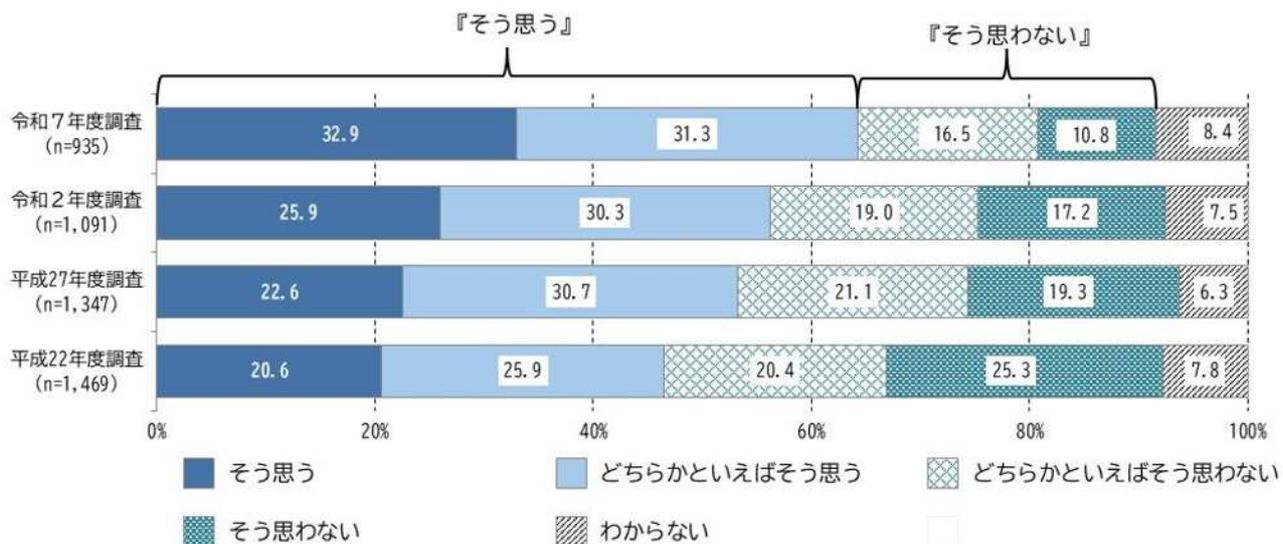
■④結婚しても相手に満足できないときは、離婚すればよい（性別、性・年代別）



結婚しても相手に満足できないときは、離婚すればよいとの考え方について、性別にみると、『そう思う』との回答は女性（66.7%）が男性（58.1%）を8.6ポイント上回っている。

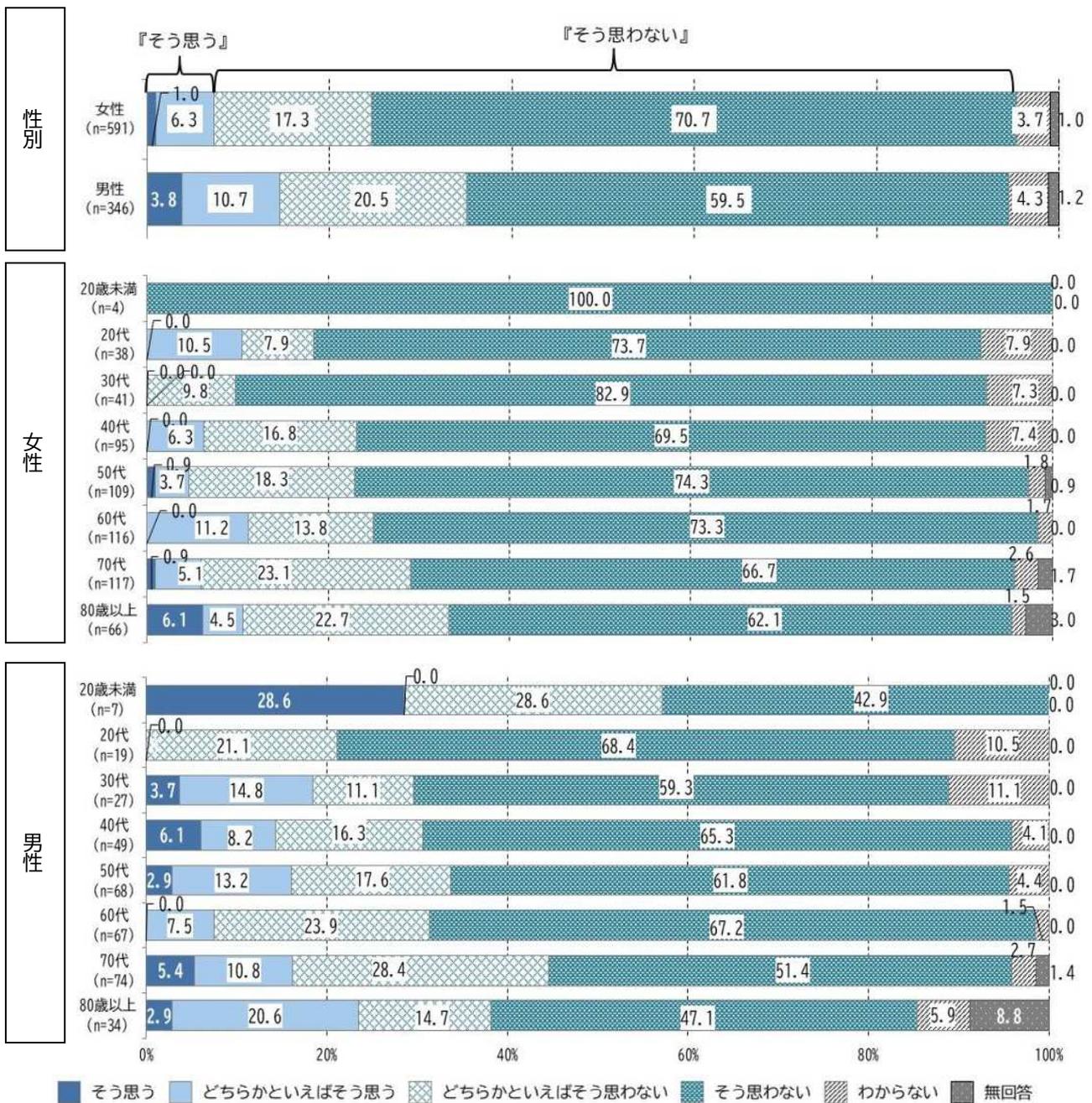
性・年代別にみると、『そう思う』との回答は女性20歳未満から30代、男性20歳未満では8割を超えている。また、『そう思わない』との回答は男女ともに年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

■④結婚しても相手に満足できないときは、離婚すればよい（経年比較）



結婚しても相手に満足できないときは、離婚すればよいとの考え方について、経年比較すると、『そう思う』との回答は令和7年度調査（64.2%）が令和2年度調査（56.2%）を8.0ポイント、平成22年度調査（46.5%）を17.7ポイント上回っており、これまでの調査で一番割合が高くなっている。

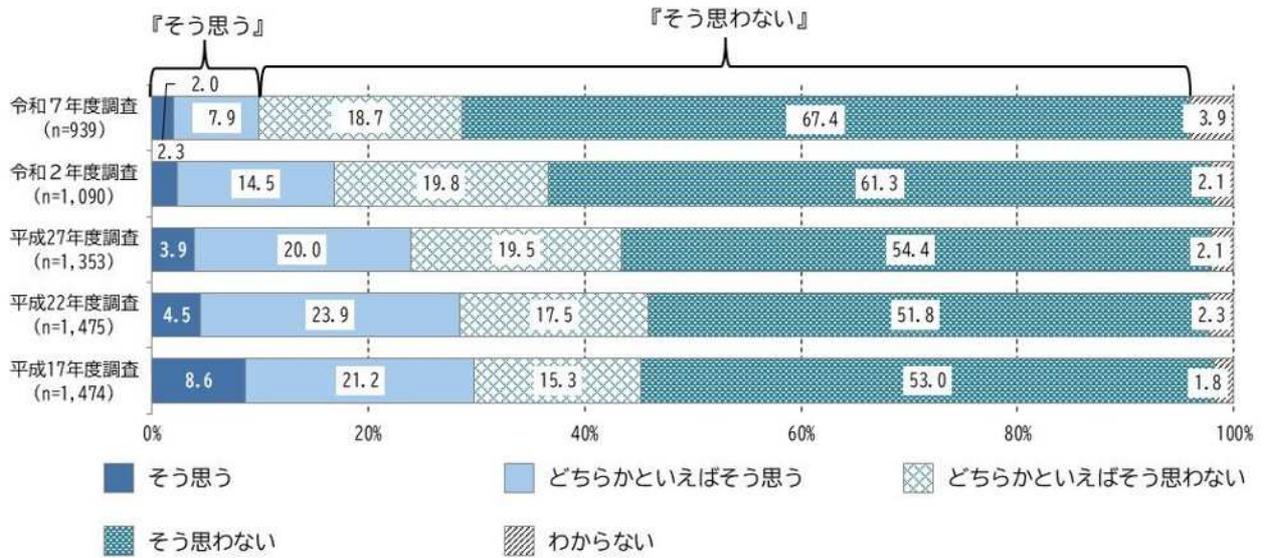
■⑤男性は外で働くもの、女性は家庭を守るものだ（性別、性・年代別）



男性は外で働くもの、女性は家庭を守るものだとの考え方について、性別にみると、『そう思う』との回答は男性（14.5%）が女性（7.3%）を7.2ポイント上回っている。

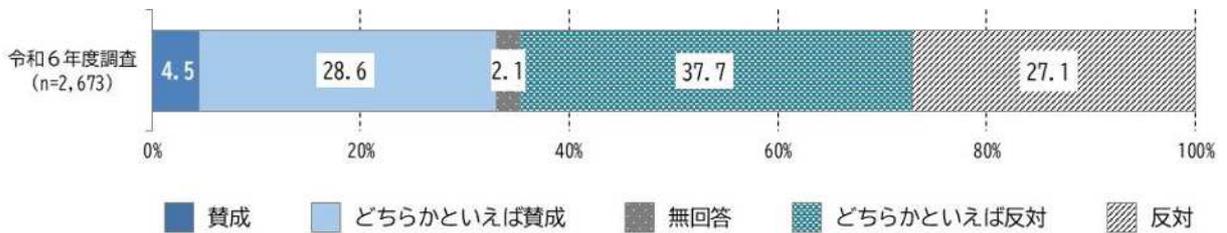
性・年代別にみると、『そう思わない』との回答は女性のすべての年代で8割を超えているが、一方『そう思う』との回答は、男性20歳未満、30代、80歳以上で2割程度となっている。

■⑤男性は外で働くもの、女性は家庭を守るものだ（経年比較）

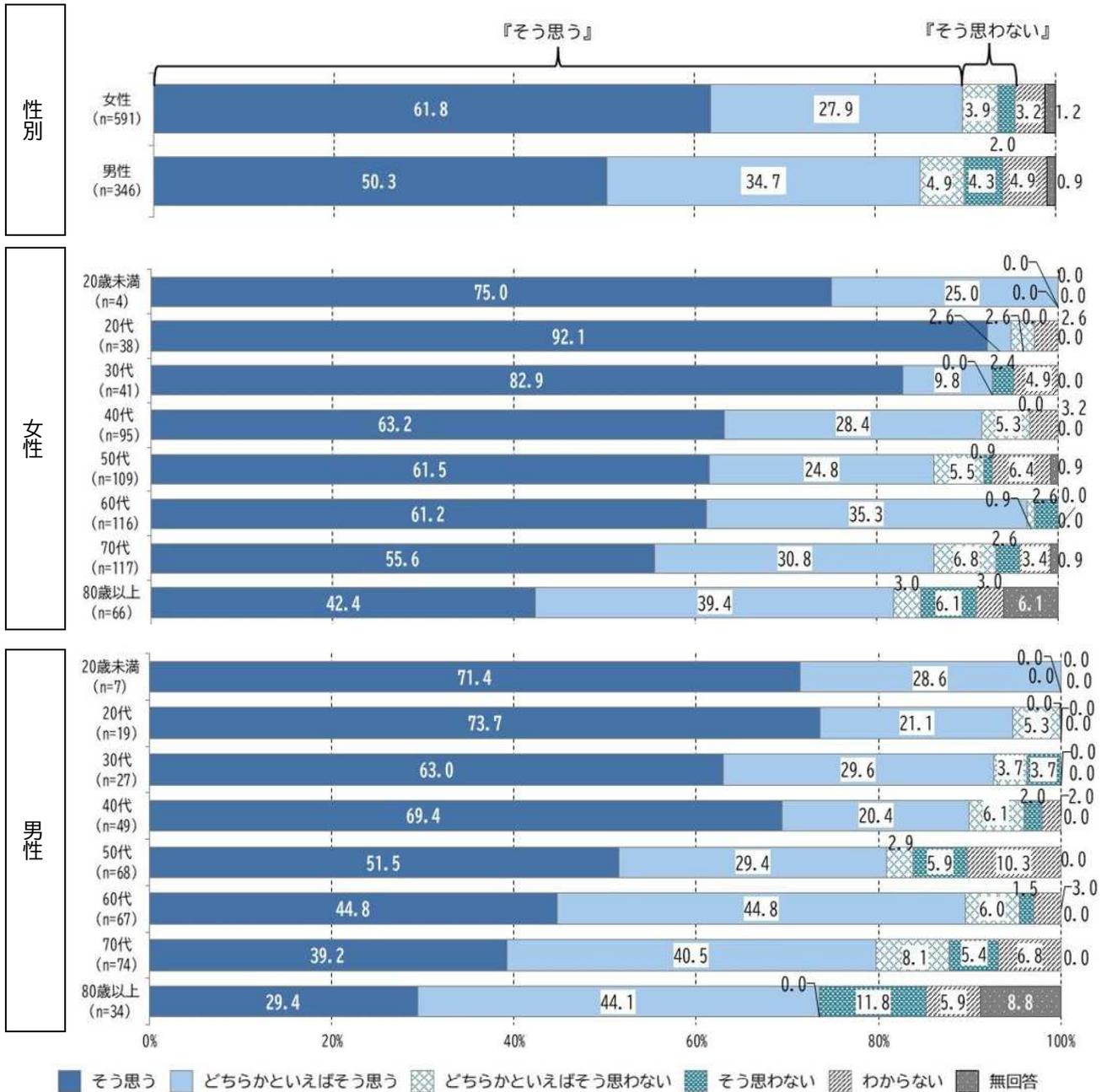


男性は外で働くもの、女性は家庭を守るものだとの考え方について、経年比較すると、『そう思わない』との回答は令和7年度調査（86.1%）が最も高く、次いで令和2年度調査（81.1%）、平成27年度調査（73.0%）、平成22年度調査（69.3%）、平成17年度調査（68.3%）の順になっている。

■【参考】国調査結果（男性は外で働くもの、女性は家庭を守るものだ）

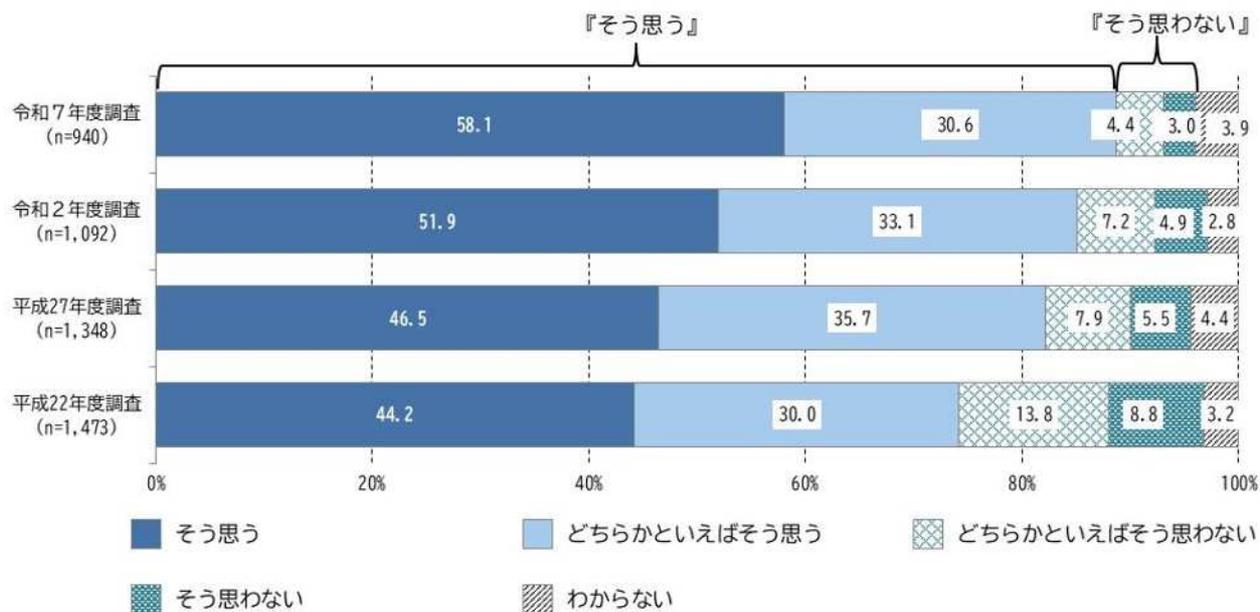


■⑥男性と女性の、どちらが外で働いても、家事・育児・介護をしてもよい（性別、性・年代別）



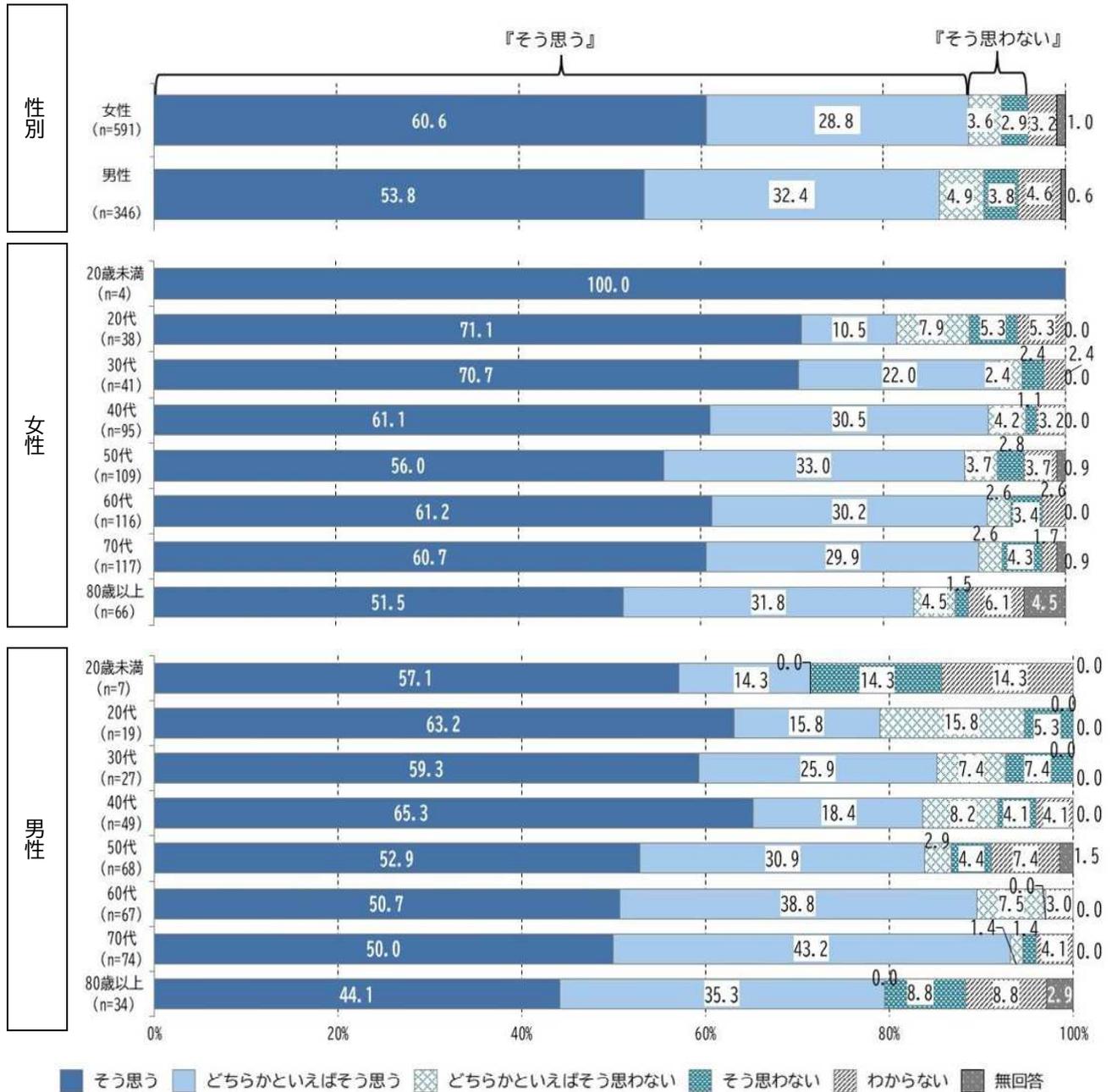
男性と女性の、どちらが外で働いても、家事・育児・介護をしてもよいとの考え方について、性別にみると、『そう思う』との回答は女性 (89.7%) が男性 (85.0%) を 4.7 ポイント上回っている。

■⑥男性と女性の、どちらが外で働いても、家事・育児・介護をしてもよい（経年比較）



男性と女性の、どちらが外で働いても、家事・育児・介護をしてもよいとの考え方について、経年比較すると、『そう思う』との回答は令和7年度調査（88.7%）が最も高く、次いで令和2年度調査（85.0%）、平成27年度調査（82.2%）、平成22年度調査（74.2%）の順となっている。

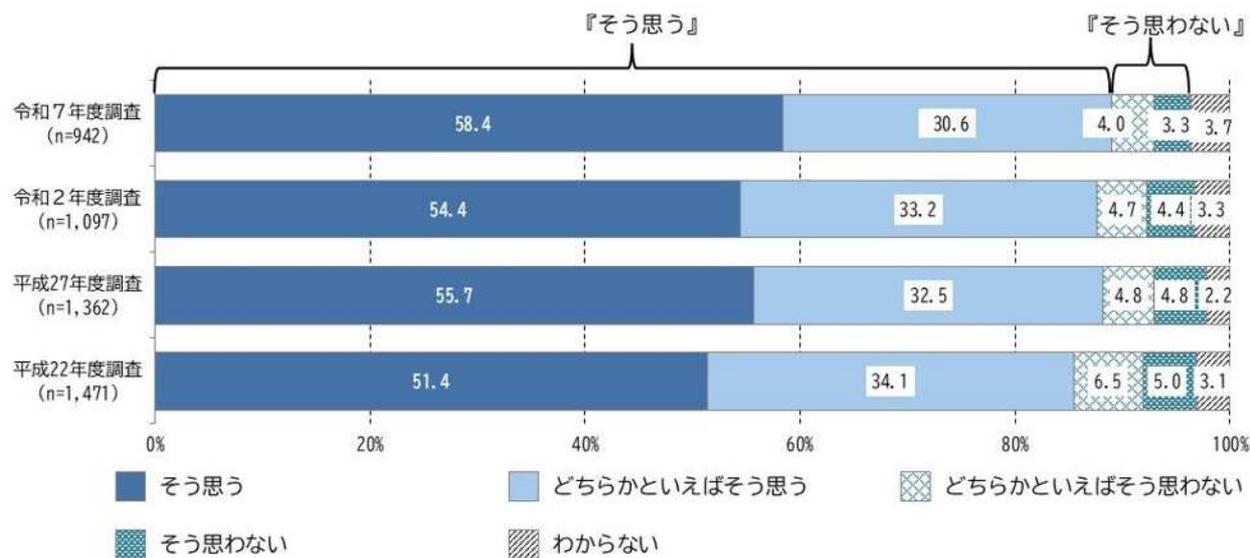
■⑦男性も女性も、どちらも仕事と家庭を両立できるのがよい（性別、性・年代別）



男性も女性も、どちらも仕事と家庭を両立できるのがよいとの考え方について、性別にみると、『そう思う』との回答は女性（89.4%）が男性（86.2%）を3.2ポイント上回っている。

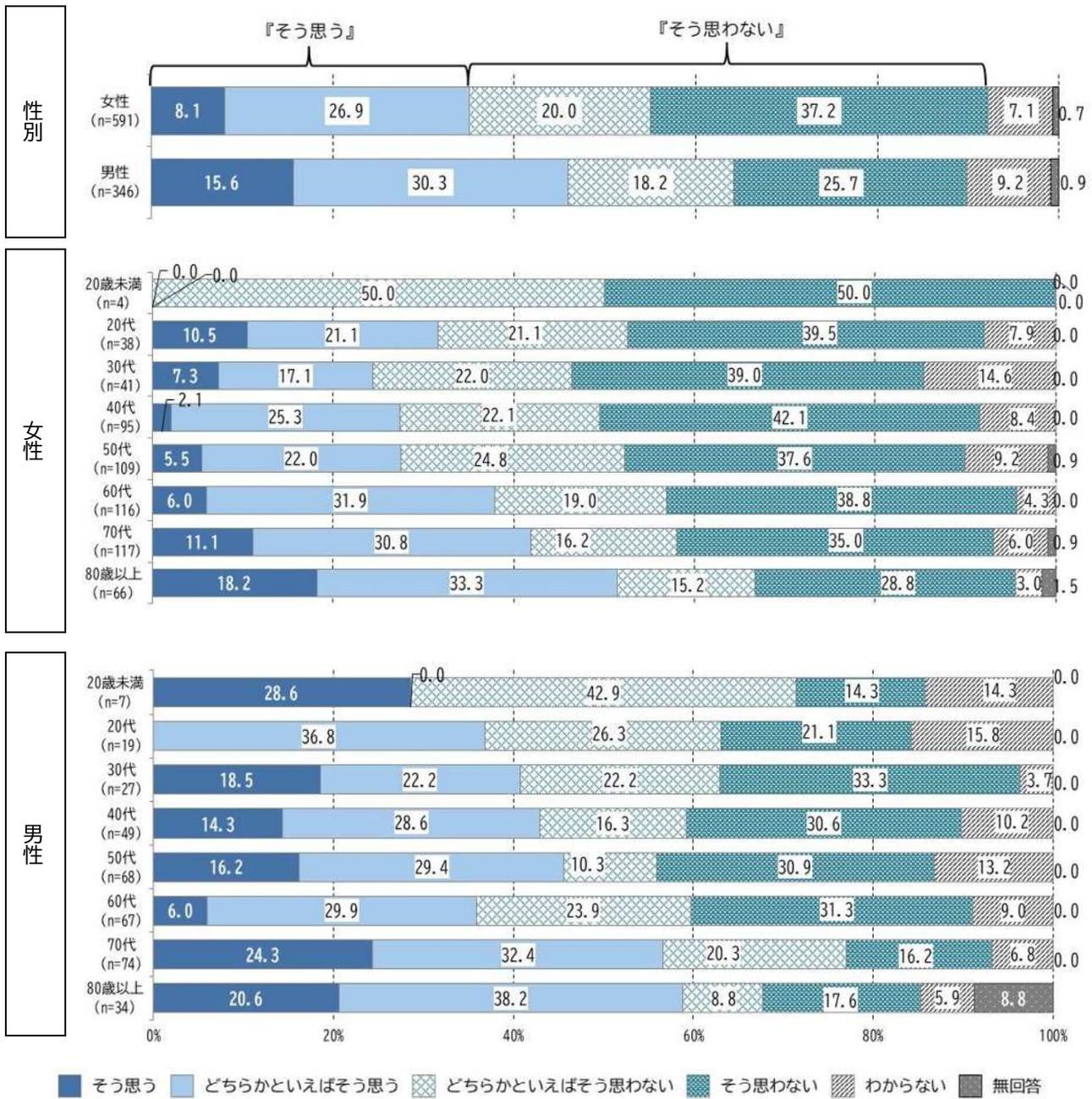
性・年代別にみると、『そう思う』との回答は、男性20歳未満を除くすべての性・年代においてほぼ8割を超えている。

■⑦男性も女性も、どちらも仕事と家庭を両立できるのがよい（経年比較）



男性も女性も、どちらも仕事と家庭を両立できるのがよいとの考え方について、経年比較すると、『そう思う』との回答は令和7年度調査(89.0%)、令和2年度調査(87.6%)、平成27年度調査(88.2%)、平成22年度調査(85.5%)と、いずれの調査でも8割台後半で推移しており、大きな差は見られない。

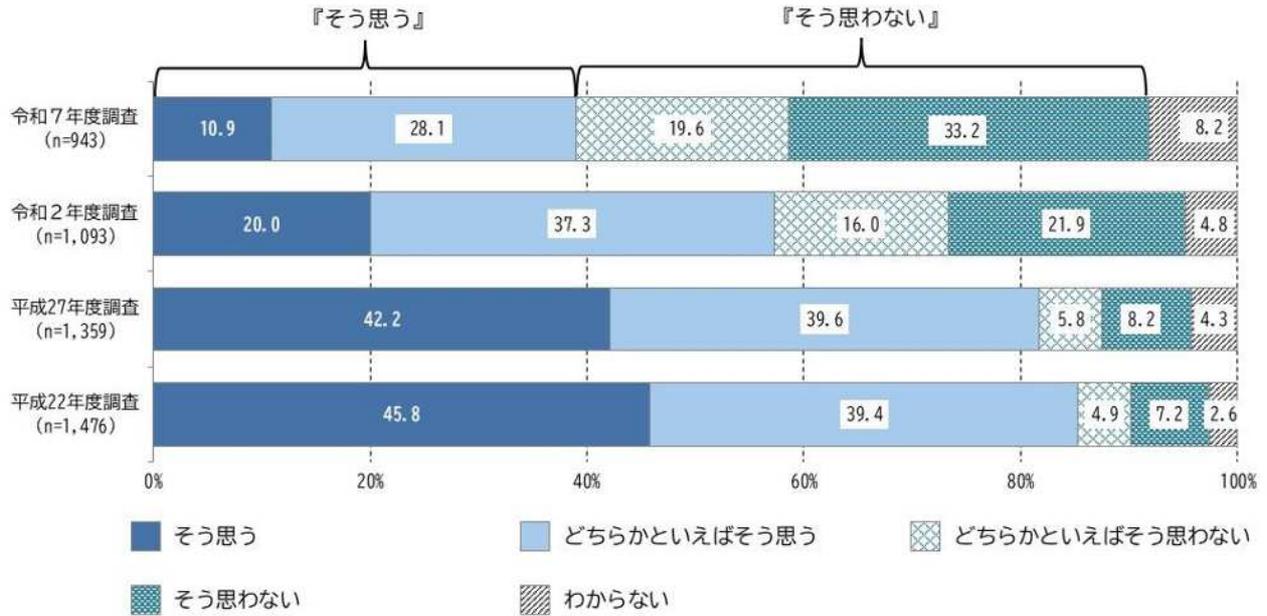
■⑧子どもが小さいときは女性は仕事をせず、育児に専念する方がよい（性別、性・年代別）



子どもが小さいときは女性は仕事をせず、育児に専念する方がよいとの考え方について、性別にみると、『そう思う』との回答は男性（45.9%）が女性（35.0%）を10.9ポイント上回っている。

性・年代別にみると、『そう思わない』との回答は、女性50代以下で6割を、男性20歳未満、30代、60代で5割を超えている。

■⑧子どもが小さいときは女性は仕事をせず、育児に専念する方がよい（経年比較）



子どもが小さいときは女性は仕事をせず、育児に専念する方がよいとの考え方について、経年比較すると、『そう思う』との回答は令和7年度調査(39.0%)が最も低く、次いで令和2年度調査(57.3%)、平成27年度調査(81.8%)、平成22年度調査(85.2%)の順となっている。